

第3回 水木しげる記念館再整備基本構想・基本計画検討委員会

日時：令和4年4月4日（月）13：30～

場所：境港商工会議所3階大会議室

（※一部オンライン）

《 次 第 》

- 1 開会
- 2 説明事項
- 3 検討事項
 - ①基本構想（案）
 - ②基本計画（案）
 - ③今後のスケジュール
- 4 その他
- 5 閉会

水木しげる記念館再整備基本構想・基本計画 第2回検討委員会 意見要旨

テーマ 発言者	コンセプト・方向性について	各種事業活動について	諸室・スペースについて	管理運営について	その他
古橋副委員長 (一般社団法人境 港観光協会 事務 局長)	- マニアの方も、子どもたちも双方が満足できる施設を目指したい。 (計画 P15～21) - 子どもが楽しみながら、妖怪や境港に関することを学び、最終的にまた来たいと思ってもらえることが大事。(同上)	収蔵に力を入れてほしい。人員の配置がポイントとなる。(計画 P2、26)			
柏木委員 (水木しげるロード振興会 会長)	- 何度も訪れて楽しめるようなコンセプトが大切。(構想 P26～29) - 各施設がバラバラではなく、連携し、水木しげるロード内の施設としての見方ができるようになるとより良い。	デジタルを上手に使って、資料保管や展示をしてほしい。(計画 P2、19)		水木しげるロードやブロンズ像と上手に連携させながら、水木しげる記念館の運営を考えていく必要がある。	- 駐車場から施設まで遠く、どのように施設まで来ていただくか考える必要がある。 - 繁忙期（ゴールデンウィークとお盆）を理解しながら計画してほしい。
澤田委員 (水木しげるロード街なみ環境整備協定運営協議会委員長)		各種事業を検討するために、既に行っている活動の一覧表をカレンダー形式で示してほしい。(構想 P5.6)			- 水木しげるロードの人々とその周辺の人々では意見が全く違うことを理解することが必要。 - 施設回り・ロードの案内を含めて、サイン計画を立てることが必要。
山田委員 (境港市自治連合会 副会長)		ロードのスタンプラリーは非常に人気。もう少し表に出してはどうか。	- 周辺地域の人に来ていただくために、交流できる場を設けてほしい。(計画 P12.13) - 建物の上の方から港や島根半島が見えるようにして、水木先生の原点を感じられるような計画としてほしい。		
庄司委員 (境港商工会議所事務局長)		- テーマパーク性に重きを置き、お化け屋敷のような要素を取り入れてほしい。(計画 P19) - 再整備後も、小さい変更が加えられるようにできたら良い。 - デジタル技術を駆使した場も取り入れてほしい。(計画 P2、19)			- 夜にロードを歩く人々に、外からみて記念館の特徴がわかる仕掛けを取り入れてほしい。 - みなとさかい交流館2階の展示スペースの検討が始まっている。みなとさかい交流館と水木しげる記念館は始点と終点の関係性のため、連携して計画を進めてほしい。(計画 P5)

テーマ 発言者	コンセプト・方向性について	各種事業活動について	諸室・スペースについて	管理運営について	その他
赤石委員 (一般社団法人境港青年会議所 理事長)	水木先生ファンだけでなく、子どもたちが妖怪や戦争体験について学べる施設となることも重要。(計画 P18)				水木しげるロードに関係が薄い市民の方々がどのようなことを求めているのかわからない部分がある。市民の方々にもアプローチをしてほしい。
景委員 (一般社団法人境港水産振興協会 経理担当係長)		文字の展示が多く子どもはわかりにくい。音声や動画の展示を取り入れ、わかりやすくしてほしい。(計画 P16)	- コロナ収束後は団体客が多くなるため、修学旅行団体等を受け入れるスペースがあることはとても良い。 - イベント時は、前庭にたくさんの人が集まり、狭く感じる。座れるスペース等も整備してほしい。	妖怪の世界観を体感するために、イベント時等に、夜に開館することも必要。(計画 P21)	海とくらしの史料館の検討委員会では、拠点のひとつにして境港の観光のPRをする意見もあった。
渡邊委員 (境港市小学校 PTA 連合会 渡小学校 PTA 副会長)		中海・宍道湖・大山圏域を巻き込んでイベントを仕掛け、市域・周辺地域とともにおもてなしをし、国内外からの集客・リピート利用につなげていけると良い。(計画 P4)		入館料の値上げを検討してはどうか。拡大した収入は、過去の来館者への情報発信やファンづくり、ブランディング、広告、人材の安定雇用、企画・イベントの充実等への活用が考えられる。	
原口委員 (株式会社水木プロダクション 代表取締役)		- 記載されている事業計画案が全て実現できれば理想的な施設となると思う。 - 各活動について、記念館・ロード・それ以外で担うことを明確に書き分けてほしい。(計画 P8) - 市民の利用としては、建設中の交流センターがメインになると思う。記念館の目的は観光が主体。市民利用と観光施設としての機能を整理したほうが良い。(計画 P12)	- 多目的スペースや交流体験スペース等、具体的にどのように使うか検討すべき。(計画 P6) - 市民が気軽に使えるスペースとして想定されているが、繁忙期には混雑し、市民の利用が制限される場合もあると考えられる。		
森田委員 (鳥取県交流人口拡大本部観光交流局 まんが王国官房 官房長)		総論的なことが書いてあるため、あり方検討会の時の話と少し違う印象を持った。「これぞ水木しげる記念館」といった特徴が出ると良い。(計画 P15～21)	- 検討している諸室を盛り込むとなると、かなりのスペースが必要となる。諸室が増えることで常設展示のスペースが狭くなるのではないかと心配。(計画 P12) - 隣接地の活用について状況お聞かせいただきたい。	魅力的な展示のためには、運営ノウハウだけではなく、作品を理解することも重要。(計画 P26)	

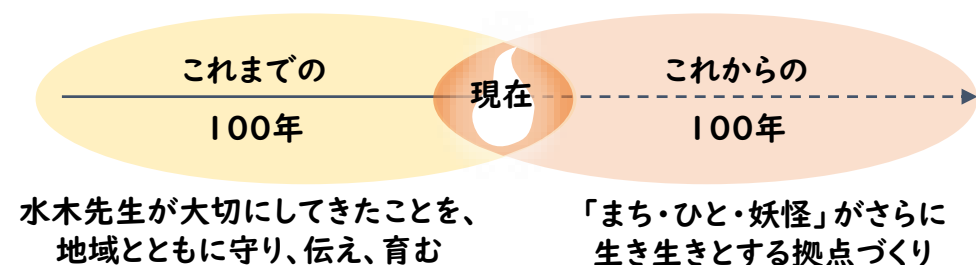
テーマ 発言者	コンセプト・方向性について	各種事業活動について	諸室・スペースについて	管理運営について	その他
尾崎委員 (鳥取県立博物館 館長)		館内で貴重な資料を取り扱うかどうかについては、今後の協議で考えていければよいが、今後、資料を取り扱う方針になった際には、それらを収蔵する収蔵庫、管理する学芸員をセットで検討すること。(計画 P25. 26)			
細田委員長 (国立大学法人島根大学 教授)		- 限られたスペースでできることを整理し、それぞれの魅力が失われないように検討してほしい。(計画 P12) - 資料を一時的に借りる「保管」か、市で購入し「収蔵」するのか。収蔵となると場所・人に求められるレベルがかなり上がってくる。(計画 P2) - ファン・サポーターは、個人だけではなく企業も含めて募るように工夫してほしい。(計画 P5)	隣接地の活用について、現段階では「周辺スペースの利活用も今後検討」と注記として盛り込むかたちとしてほしい。(計画 P12)		水木しげるロードのマップや来訪者数のグラフを資料として示してほしい。(構想 P4、計画 P30)
事務局		展示に関して、水木プロと相談しながら検討を進める。	- 隣接地の活用について、今後、収支計画等を踏まえ検討を行う。 - スペースのあり方に関して、記念館とそれ以外で担う役割を整理する。		- 市民への意見聴取としてパブリックコメント等を予定している。 - 地域の人々が水木先生や妖怪を学ぶきっかけとして、市内小学校で妖怪に関する授業を行う妖怪文化伝承事業を来月から実施予定。

1. 基本理念（目指す施設像）

時代の節目である生誕100周年の今、
これからの100年も幸福な出会いが訪れる施設づくりに向けて

**水木しげる先生が歩んだ100年を継承し
次の100年へ想いをつなげる**

文化観光創造拠点



2. 基本方針

- 施設の方針**
次の100年に水木ワールドを守り伝えるために
「ホンモノ」を扱う記念館へ施設機能を強化
- 活動の方針**
次の100年も人々に愛され続けるために
水木しげるロードと一体となる開かれた場と活動づくり
- 連携の方針**
次の100年もまちに賑わいが続くために
多様な主体を結び、発展しつづける連携づくり

3. 基本コンセプト

行き交う、つながる、混ざり合う

「境」からはじまる新しい出会い

- 古くから海と陸の「境」として物質・文化の流入基地として栄え、新しいものを受け入れる人々の気質も相まって、唯一無二のまちへと進化してきた境港の特徴を活かす。
- 人間界と霊界の「境」、実体験と創作の「境」、生と死の「境」。水木しげる先生は様々な「境」から独自の世界観を創造してきたことを感じられる施設を目指す。
- すぐ隣り合わせにある世界が行き交い、つながり、混ざり合う。今まで見えなかったものに出会える場所としての「境」を基本コンセプトとして検討する。

4. 事業活動

A【守る】
資料保管事業

貴重な原画やコレクションに加え、水木先生の魅力を発信するための幅広い分野の資料を保管する。

資料保管

資料特性に応じた適切な保管環境と、専門性を有する人員体制を整え、水木しげる先生にまつわる貴重な資料を守る。

デジタルアーカイブ

収蔵資料のデジタルアーカイブを構築。数ある資料を整理し保管し、活用される取組を行う。

直筆壁画の活用資料

施設内に直筆された大型の壁画を保存し、新施設でも再度展示物として活用する。

B【魅せる】
展示・公開事業

「水木しげる先生」を伝える唯一のミュージアムとして、より多角的な視点から水木先生の魅力を伝える展示を計画する。

常設展示

水木しげる先生の人生をたどり、世界観や作品、生き方等から「水木しげる先生」を伝える常設展示室を整備する。

企画展示

さまざまな資料に対応する企画展示室を整備し、多彩なテーマで水木しげる先生や作品の魅力を伝える企画展示を開催する。

原画展示

原画資料等が展示可能な設備環境の展示室を整備し、貴重な資料を積極的に公開する。

屋外展示

記念館へ立ち寄りたくなる仕掛け、市内外からの誘客や話題づくりのきっかけとなるよう、フォトスポットになるような展示

C【誘う】
観光振興事業

境港市の文化観光創造拠点として、地域の魅力を向上し、地域の経済活性化に貢献するための取り組みを展開する。

周遊促進

周遊の一拠点として、周遊ツアーや夜間イベントへの協力、館内外での情報発信等を行い、周遊観光の促進を図る。

ショップ

ミュージアムショップのあり方を検討。オリジナル商品の開発を行い、「記念館らしさ」や「境港らしさ」を活かす工夫を施す。

広報活動

ウェブサイトの充実やSNSを活用した話題づくりを行う。

サテライト展示

みなとさかい交流館等を活用しサテライト展示等を検討する。

D【交わる】
創造・交流事業

幅広いターゲットに向けて、楽しみや学びが広がる場や活動を充実させ、より集客力を高めるための事業を展開する。

ライブラリー

膨大な水木作品や関連する書籍等の配架や、デジタルアーカイブを閲覧できる設備を整備。地域の人々が利用できる場。

各種イベント

多様な主体と連携し、多様なニーズに応えるプログラムを企画・実施する。

人材育成

事業活動の担い手となる人材を育成する。

E【結ぶ】
連携・協働事業

市内や市外の様々な施設・団体・企業等との結びつきを強化し、更なる持続発展を目指す。

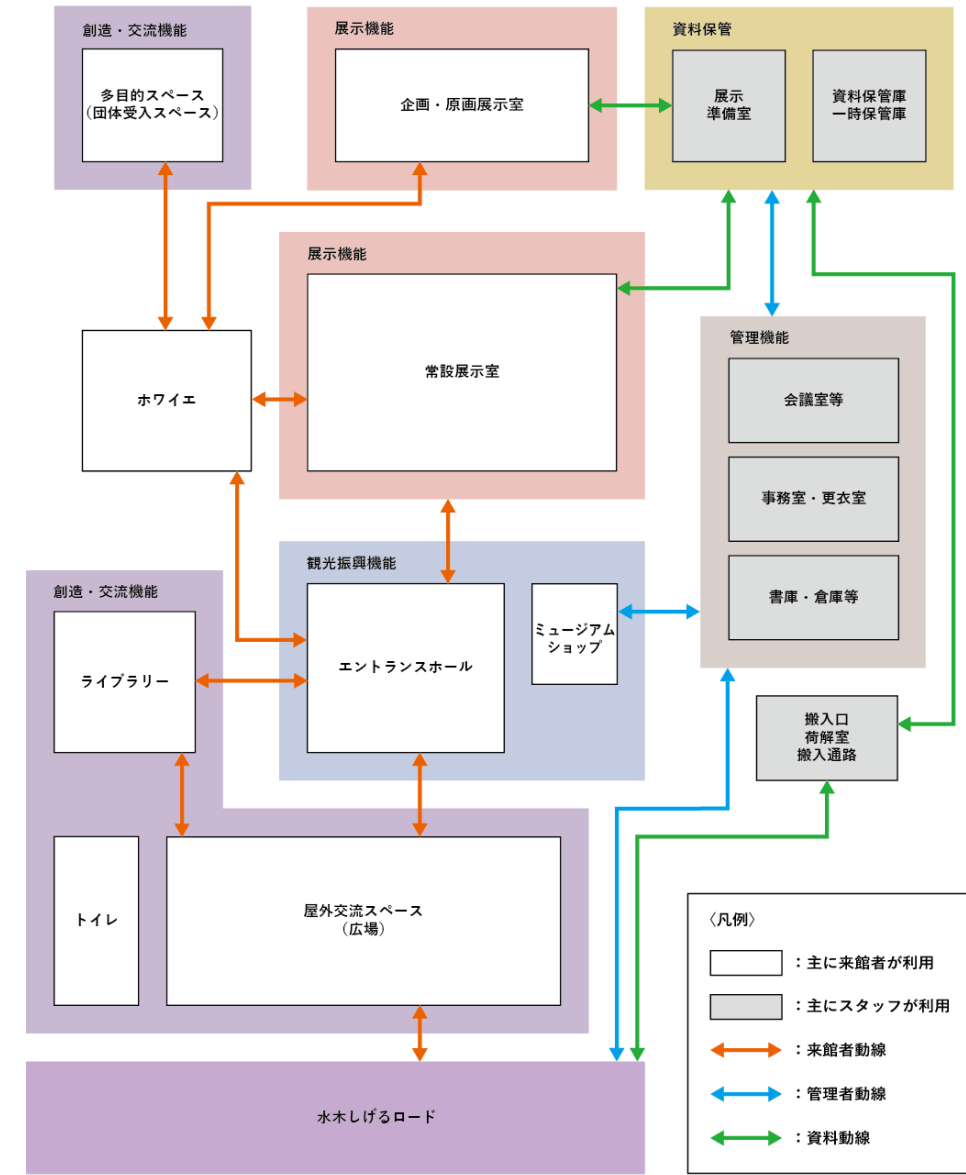
ネットワーク構築

既存のネットワークを深めるとともに、新規の協働先や連携先の開拓等を行う。

4. 施設構成

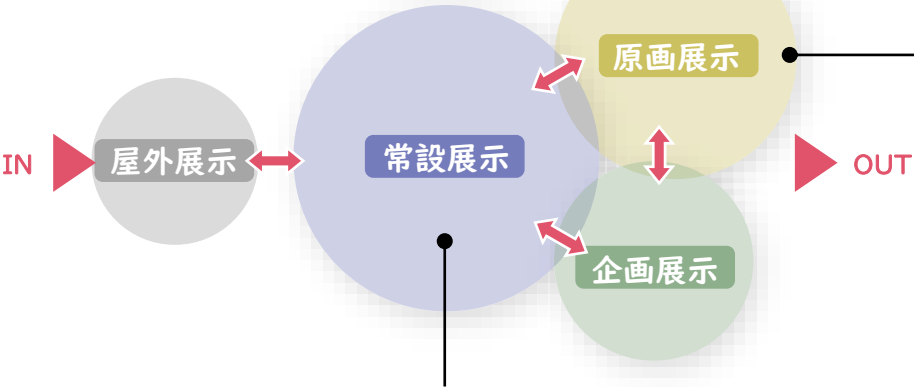
施設機能	諸室名	諸室規模
資料保管	資料保管庫・一時保管庫	150㎡
	搬入口・荷解室・搬入通路	
展示・公開	常設展示室	850㎡
	企画・原画展示室	
	ホワイエ	
	展示準備室	
観光振興	エントランスホール	100㎡
	ミュージアムショップ	
創造・交流	屋外交流スペース(広場)※面積は除く	100㎡
	ライブラリー	
	多目的スペース(団体受入スペース)	
連携・協働 ／管理運営	会議室等	150㎡
	事務室・更衣室	
	書庫・倉庫等	
その他・共有	トイレ・授乳室・ロッカー・階段・エレベーター・機械室・EPS等	250㎡
	合計	1600㎡

<諸室連関イメージ>



5. 展示計画

■展示構成イメージ



原画展示

- ・遮光措置を講じた原画資料専用の展示スペースの確保
- ・繊細な照度設定が可能な照明設備を整備

注) イメージ資料の二次利用はお控えください



常設展示

1. 水木しげる先生の人生をひもとき人物像に迫る展示構成
2. 多様な利用者層を想定しだれもが興味をもち楽しめる展示
3. 既存展示と最新技術を融合し、ミュージアム性とテーマパーク性を持ち合わせる展示

<常設展示の構成イメージ>

【プロローグ展示】 1. 水木ワールドへようこそ！

【テーマ展示】

2. 境港と水木しげる

3. 戦争と水木しげる

4. 漫画家・水木しげる

5. 妖怪研究家・水木しげる

【エピローグ展示】 6. 水木しげるの幸福論



注) イメージ資料の二次利用はお控えください



注) イメージ資料の二次利用はお控えください

6. 管理運営計画

■現状

原画等の資料や、活動を担当する専門スタッフは有していない状況にある。

■運営体制

- ・原画を展示するため、貴重な資料等の取り扱いに関する専門的な知識が必要
- ・積極的な企画展示の展開するため、水木作品に関する多角的な知識を持つ人材が必要
- ・持続的で発展的な利用者サービスの提供が必要

持続的な事業発展のための
充実した運営体制の構築

7. 収支計画

■施設整備費

項目	鉄骨造	鉄筋コンクリート造
工事費（建築・展示・収蔵庫什器製作費含む）	11.0億	12.8億
解体撤去費	0.4億	
設計費等	1.6億	
合計(税込)	約13億円	約14.8億円

■施設運営費

- ・年間1億円（税込）程度の施設運営費を想定

入館料収入とともに、各種収益事業等についても
検討・計画しながら安定的、持続的な活動を目指す

水木しげる記念館基本構想・基本計画策定業務

基本構想

(案)

令和4年5月

境港市

目次

Ⅰ	現状把握・課題整理	
Ⅰ－Ⅰ	社会背景や境港市上位計画等の関連情報整理	Ⅰ
Ⅰ－Ⅱ	既存施設の現況	Ⅲ
Ⅰ－Ⅲ	水木しげるロードに関わる方々へのアンケート調査	Ⅶ
Ⅰ－Ⅳ	既存施設の課題整理	Ⅾ
Ⅰ－Ⅴ	主要な展示資料の把握	ⅰ
Ⅱ	新施設の基本理念・基本コンセプト	
Ⅱ－Ⅰ	再整備の視点・ターゲット	ⅲ
Ⅱ－Ⅱ	基本理念	ⅲ
Ⅱ－Ⅲ	基本方針.....	ⅲ
Ⅱ－Ⅳ	基本コンセプト	ⅲ
Ⅲ	事業活動	
Ⅲ－Ⅰ	施設の事業活動	ⅳ
Ⅳ	管理運営の考え方	
Ⅳ－Ⅰ	基本方針	ⅳ

Ⅰ 現状把握・課題整理

Ⅰ－Ⅰ．社会背景や境港市上位計画等の関連情報整理

(1) 近年の社会背景

近年の社会背景として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による人流抑制と観光客の減少が挙げられる。水木しげる記念館においても、2020（令和 2）年には新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、54 日間の休館を余儀なくされた。水木しげるロードのリニューアルを行った 2018（平成 30）年には 25 万人だった入館者数は、2021（令和 3）年には 7 万人にまで激減した。

また、感染リスクを軽減するために、地元や近隣への短距離観光を行うマイクロツーリズムや、平日を含む一定期間滞在する滞在型観光などの旅行スタイルも求められるようになるなど、来訪者の価値観の変化や多様化も加速している。

以上のように変化する社会背景を考慮し、時勢に柔軟に対応し、持続的に成長し続ける仕組みづくりが求められる。

(2) 第 2 期境港市総合戦略（令和 2 年 2 月）

本市では、令和 2 年から 5 年間の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「第 2 期境港市総合戦略」を令和 2 年に策定した。

本計画では、①「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」、②「「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくり」の 2 つの基本目標と、「県境を越えた広域連携による住みたくする圏域づくり」の圏域目標を示している。そのうち、基本目標①「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」では、目標として「水木しげるロード年間観光入込客数の年間 200 万人以上の維持」を示している。観光振興に関する施策の基本的方向として、「観光地の魅力度向上による滞在型観光の推進」、「外国人観光客の誘客促進」が挙げられ、「鬼太郎」や「水木しげる作品」の観光資源のさらなる魅力度向上を図ること等を示している。具体的な施策として、水木しげるロードのライトアップなど夜間の賑わい創出及び滞在時間延長の取組の推進や、水木しげる作品のキャラクターの着ぐるみによるおもてなしの充実などを示している。

水木しげる記念館の再整備にあたっては、上記の施策を踏まえ、市の観光振興に貢献する施設づくりを目指すことが求められる。

(3) 「水木しげる記念館」のあり方に関する最終提言書（令和３年３月）

建物や設備の老朽化に伴う改修等が必要なこと、収蔵庫など貴重な資料を保存するスペースもないことなどから、令和元年より「水木しげる記念館あり方検討委員会」によって、施設のあり方について様々な観点から検討が重ねられた。

その結果、水木しげる記念館の建設場所は、“現在地”が最も妥当であることが提言された。

さらに、現在地での再整備にあたっては、周辺の施設等を活用し、休館せずに営業を継続することを理想とし、代替施設等の確保ができないときは、整備に係る工期の短縮を図るなど、可能な限り休館期間が短くなるように創意工夫を図ることが求められている。

再整備にあたっては、社会情勢の変化や境港市が置かれている財政状況なども念頭に、水木しげるロードなどの既存資源を有効に活用した文化観光拠点、地域づくりの創出に向けて、施設の規模並びに機能強化の検討、クラウドファンディングによる財源調達や民間資金を活用したＰＦＩ等による整備手法の検討など、総合的に判断を行うことが求められた。

(4) 水木しげる記念館を中核としたさかなと鬼太郎のまち境港市拠点計画（令和３年５月）

「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（文化観光推進法）に基づき、「水木しげる記念館を中核としたさかなと鬼太郎のまち境港市拠点計画」が文化庁により認定を受けた。

本計画では、水木しげる記念館の魅力度向上、水木しげるロードの滞在型観光推進、水木作品に描かれた聖地等への周遊促進、インバウンド旅行者に対応した環境整備の４つの取組強化事項が設定された。これら取組強化事項は、地域の文化観光関係者と連携して取り組むことで、誘客や滞在促進、観光消費額の拡大を図り、魅力あふれる観光地域づくりの実現を目指すものである。

(5) 水木しげるロード街なみ環境整備事業

水木しげるロードでは、街なみに関する独自のルールを定め、水木しげるロードにふさわしい街なみの形成に取り組んでいる。

水木しげる記念館の再整備にあたっては、水木しげるロードの街なみ環境整備事業の方針を踏まえ、調和のとれた景観を保つ施設計画を検討することが求められる。

1-2. 既存施設の現況

(1) 施設概要

水木しげる記念館は、老若男女問わず愛され続けている水木ワールドの集大成として、2003（平成15）年に「水木しげるロード」に整備された施設である。館内では、独創的かつ多様な作品の世界、哲学や精神の現れである妖怪の世界を貴重な資料や映像等で紹介している。

所在地	鳥取県境港市本町5番地
開館年月日	2003(平成15)年3月8日
開館時間	9:30～17:00
休館日	年中無休
入館料	一般 700円／中高生 500円／小学生 300円／ 障がいのある方、その介護者1名 300円
施設規模	敷地面積：1,643㎡ 構造：木造一部鉄骨造 地下1階地上2階 延床面積：1,163㎡
展示構成	ゲゲゲの玄関／水木しげる 漫画ワールド／水木ギャラリー／ねぼけ人生の間／ 水木しげるの仕事部屋／のんのんばあとオレ／妖怪洞窟／妖怪ひろば／ 人生絵巻の回廊／企画展示
運営体制	館長（1名）・職員（1名）・事務員（3名）・ 案内員（10名）・着ぐるみ隊（5名）

(2) 立地環境

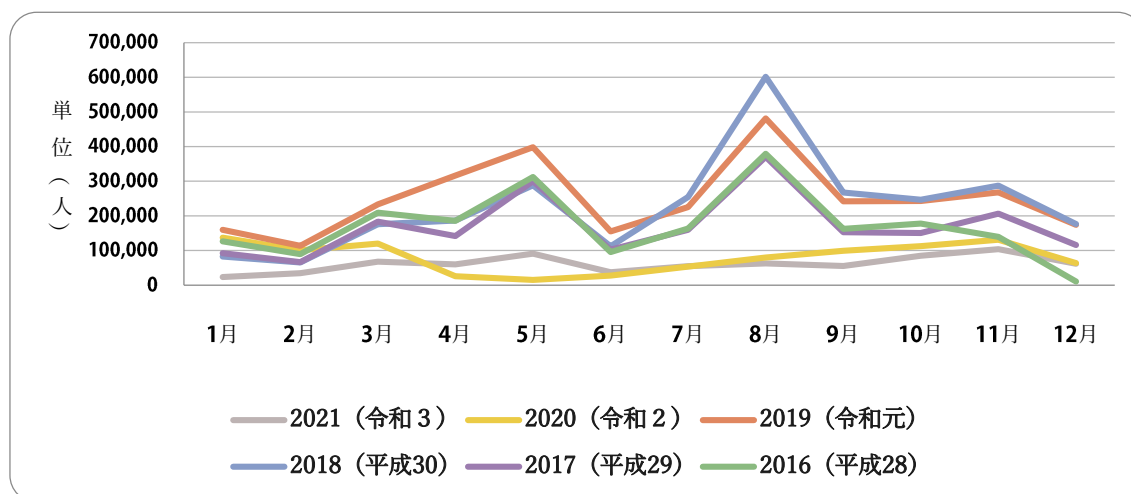
水木しげるロードは、1993（平成5）年に誕生した、境港駅から水木しげる記念館までの約800mを結ぶ商店街である。道の両側には、水木作品に登場するキャラクターや妖怪たちをモチーフとした177体の妖怪ブロンズ像やオブジェ設置されている。商店街全体で、水木先生や妖怪をテーマとした取り組みを行う鳥取県内で有数の観光スポットであり、地域おこしのモデルケースとして注目される。

修学旅行等の団体客は、水木しげるロードから少し離れた駐車場でバスを降り、必ず水木しげるロードを歩いて通り、水木しげる記念館へ向かう位置関係となっている。



(c) OpenStreetMap contributors, CC-BY-SA

水木しげるロードの入込客数は、新型コロナウイルス感染拡大前の2019（令和元）年までは、200万～300万人を推移しており、特にゴールデンウィークと夏休みに入込客数が多い傾向にあった。2021（令和3）年には、新型コロナウイルス感染症の影響により、74万人まで激減している。



水木しげるロードの入込客数

(3) イベント・行事

水木しげるロードおよび境港市内では、水木先生や妖怪に関するイベントや季節の魅力を発信する行事が1年を通して開催されている。

開催月	イベント名	主催	開催場所	水木しげる記念館の関わり方
1月	新年のご挨拶	水木しげる記念館	水木しげる記念館	主催
	カニ感謝祭	境港カニ水揚げ日本一 PR 実行委員会	水木しげるロード (妖怪神社～水木しげる記念館)	会場
3月	水木しげる生誕祭	鳥取県、境港市	水木しげる記念館前庭ほか	会場
	水木しげる記念館開館記念日			主催（無料開放）
7月	みなと祭	みなと祭実行委員会	境港市内	
	土曜夜市	水木しげるロード振興会・水木しげるロード土曜夜市実行委員会	水木しげるロード	会場
8月	土曜夜市	水木しげるロード振興会、水木しげるロード土曜夜市実行委員会	水木しげるロード	会場
	妖怪そぞろ歩き	水木しげるロード振興会、水木しげるロード土曜夜市実行委員会	水木しげるロード	
	ゲゲゲのゲタ飛ばし大会	境港青年会議所 ゲタ飛ばし大会実行委員会	日ノ出広場	
10月	妖怪ハロウィン	境港観光協会、水木しげるロード振興会、水木しげるロード土曜夜市実行委員会、境港市	水木しげるロード	会場

開催月	イベント名	主催	開催場所	水木しげる記念館 の関わり方
	妖怪川柳	境港観光協会		協賛
	妖怪検定	境港商工会議所、 境港観光協会	境港商工会議所	後援
11月	ゲゲゲ忌	水木しげるロード 振興会	水木しげる記念館前 庭	会場
	ゲゲゲのゲタつ み大会	水木しげるロード 振興会	水木しげる記念館前 庭	会場
12月	妖怪ブロンズ像 しめ縄飾り	水木しげるロード 振興会	水木しげるロード	
	ゲゲゲのクリス マス	境港市、境港観光 協会、水木しげる ロード振興会、水 木しげるロード土 曜夜市実行委員会	水木しげる記念館周 辺	会場
	水木しげるロー ド大感謝祭	水木しげるロード 振興会	水木しげる記念館前 庭	会場
	水木しげるロー ドフォトコンテ ンスト	境港観光協会	水木しげるロード	
不定期	水木しげるロー ドフォトコンテ スト	境港観光協会	水木しげるロード	
	妖怪ナイトウォ ーク	境港市	水木しげるロード	着ぐるみによる おもてなし

1-3. 水木しげるロードに関わる方々へのアンケート調査

(1) 調査概要

再整備にあたり、地域の意向やニーズを把握することを目的として、アンケート調査を行った。令和3年11月17日（水）～24日（水）の期間において、水木しげるロード振興会に所属する62施設に質問用紙を送付し、メールおよびFAXにて質問用紙を回収した。

(2) 調査項目

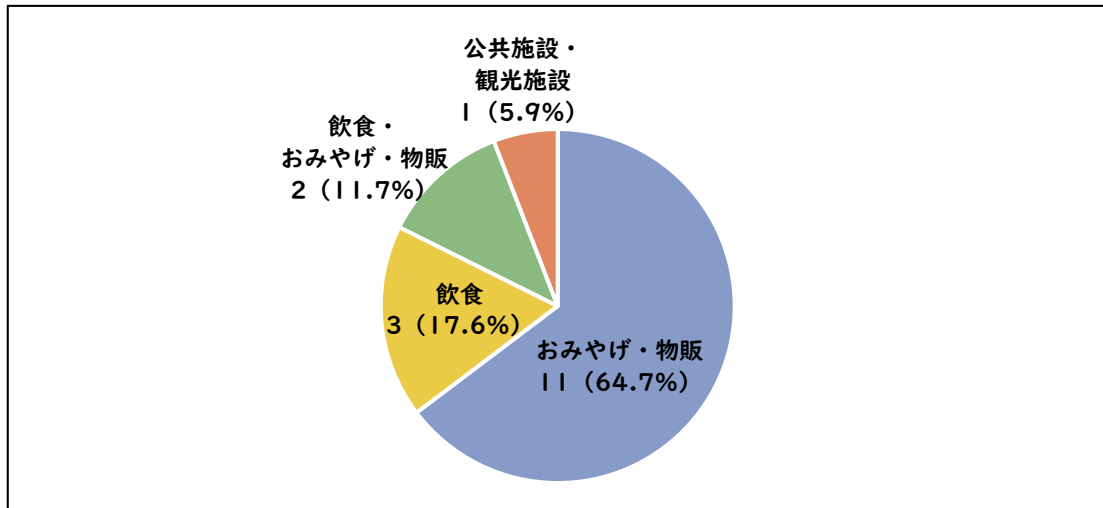
- A-1. 施設の業種
- A-2. 施設利用者の主な利用目的
- A-3. 施設のリピーターの割合
- A-4. 施設での水木先生や作品に関連する取り組みについて
- B-1. 現在の水木しげる記念館の満足度
- C-1. 新たな水木しげる記念館に期待する役割
- C-2. 設備・環境に関して、今後力を入れるべきだと思う項目
- C-3. 活動・運営に関して、今後力を入れるべきだと思う項目
- C-4. 新たな水木しげる記念館との連携・協力の可能性について
- D-1. 再整備に関するご意見・ご要望

(3) 調査結果

回答件数：１７件

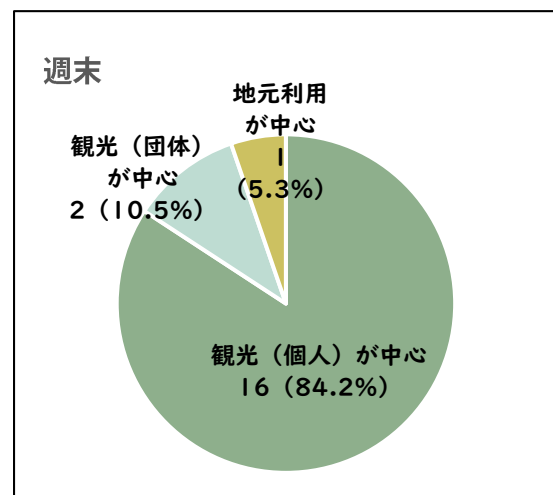
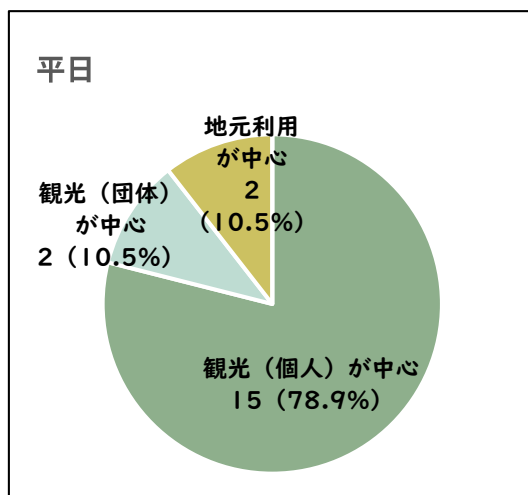
A-1. 施設の業種

ほとんどの施設が「おみやげ・物販」または「飲食」と回答した。



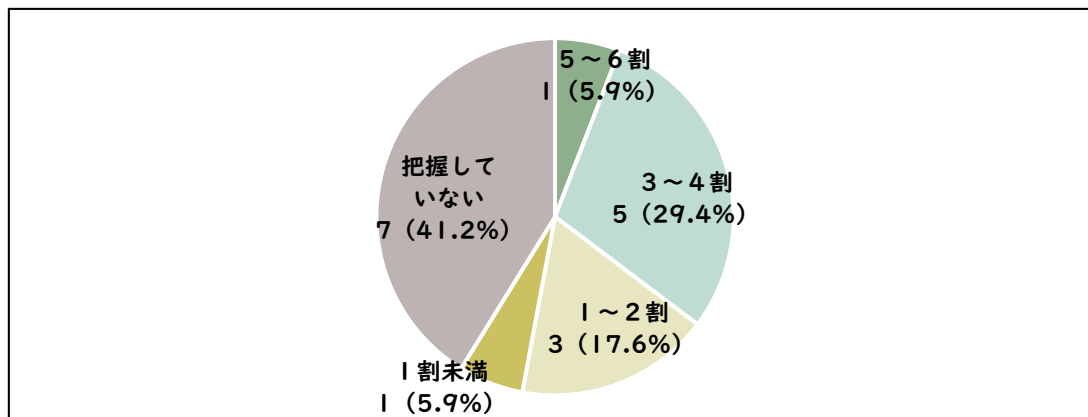
A-2. 施設利用者の主な利用目的

平日・週末ともに、８割近くが「観光（個人）が中心」と回答した。



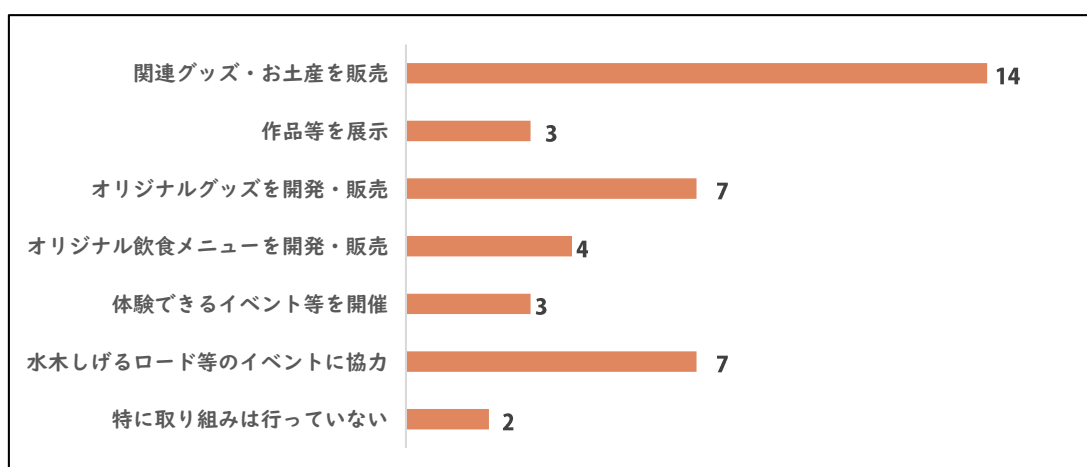
A-3. 施設のリピーターの割合

「3～4割」「1～2割」の回答が多い傾向だが、4割近くが「把握していない」と回答した。



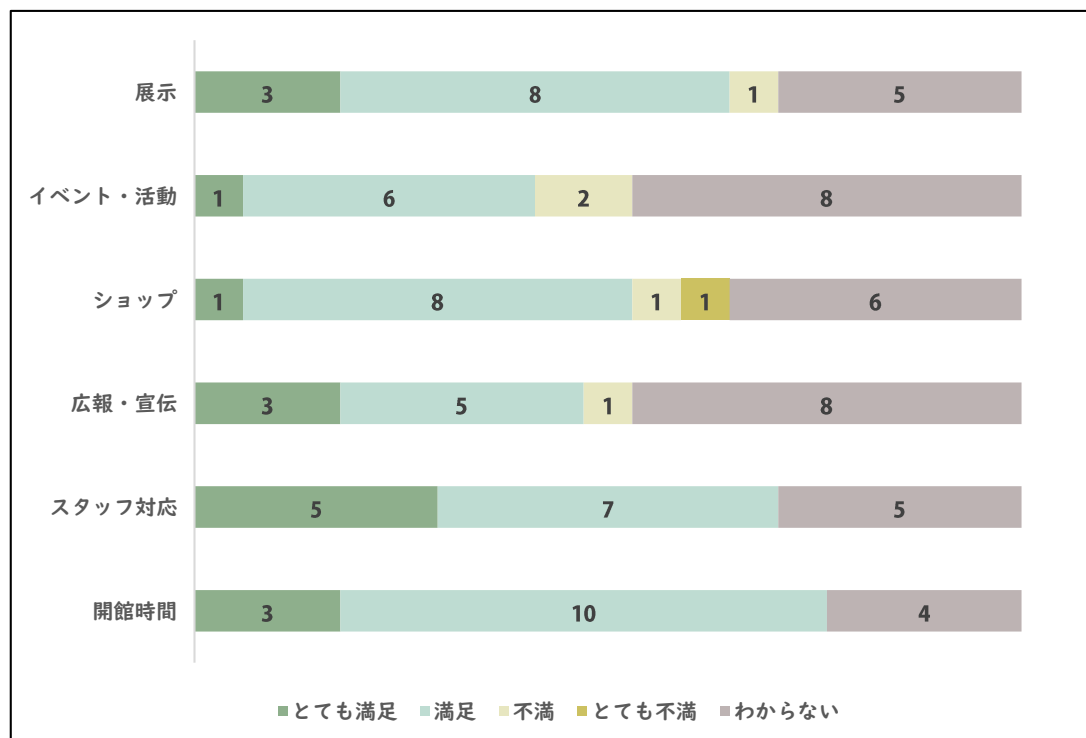
A-4. 施設での水木先生や作品に関連する取り組みについて（複数回答可）

「関連グッズ・お土産を販売している」を中心に、多くの施設が何らかの取り組みを行っている」と回答。



B-1. 現在の水木しげる記念館の満足度

現在の水木しげる記念館について概ね満足度は高く、とくに「展示」「スタッフ対応」「開館時間」が高評価。一方で、長らく来館されておらず「わからない」の回答も多い傾向。

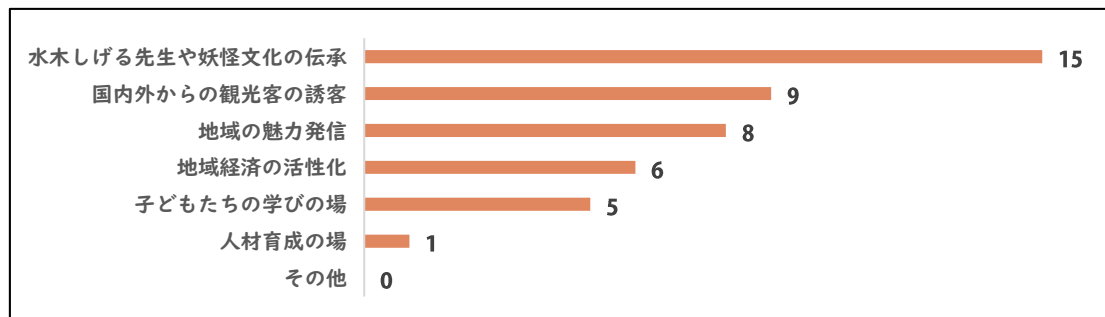


主な意見（抜粋）

項目	満足度	その理由
展示	とても満足	• ここでしか見られないものが多数あるから。
展示	満足	• 水木しげる先生の年表を見ながらの展示物の鑑賞は見ごたえがあります。水木ギャラリーコーナー以外にも展示替えがあると嬉しいです。
展示	不満	• 原画の展示について、一区画(一室)で良いので水木先生の書いた「本物」を見ることの出来る環境は必須と思う。水木先生がその時代にその手で描いた絵、原稿を見ることで人に伝わる事がきつとあると思う。これこそが水木しげる記念館最大の魅力に繋がる。 • 企画展示の変更頻度を増やし、リピーターの増加、ファンや市民が足を運ぶ機会を増やしてほしい。
イベント・活動	不満	• 水木しげるロードにお越しの方に水木しげる記念館をPRできる独自のイベントがあると、お店側もお客様にご入館をご案内できる機会になります。
ショップ	満足	• 水木しげる先生の書籍の取り扱いがあり、お客様にご案内できるので助かっています。新刊や、取り扱い書籍の紹介がHPなどであると、より水木しげる記念館に入館しやすいのではと感じます。
ショップ	不満	• 記念館ならではの商品が望まれている、物販、飲食に関してはノウハウ、アイディアが大切。
ショップ	とても不満	• グッズ販売はしないで下さい。商店街（水木しげるロード）と競合となるため。
広報・宣伝	とても満足	• SNS等も使って幅広く広報しておられる。
広報・宣伝	満足	• 水木しげるロードの広告塔の柱は「水木しげる記念館」と言うのは間違いない所、一般店舗では高額な広告費を捻出しても効果が得にくい中、雑誌、新聞等に市の経費を使用しながら水木しげるロードの誘客を推進していただいておりますに感謝している。
広報・宣伝	不満	• 日々の水木しげる記念館の様子などがわかると楽しいと思います。
スタッフ対応	とても満足	• コロナ発生時から丁寧な対応を行われていることで記念館に対する不満や苦情を聞いたことがない。記念館を訪れた際にスタッフの皆さんが元気よく挨拶して下さるのはとても気持ち良い。
スタッフ対応	満足	• いつも水木しげるロードのイベントでご協力いただき感謝しています。入館制限中ですが、入館の際も手際よく対応していただいています。
開館時間	とても満足	• 年中無休なのありがたい
開館時間	満足	• 年中無休で開館していただいている事に関して感謝しかない。 • 季節等によりナイトツアー、夜間営業が任意で出来るようになると更にうれしい。

C-1. 新たな水木しげる記念館に期待する役割（3つまで選択）

「水木しげる先生や妖怪文化の伝承」の回答が最も多く、次いで「国内外からの観光客の誘客」「地域の魅力発信」の回答が多い傾向。

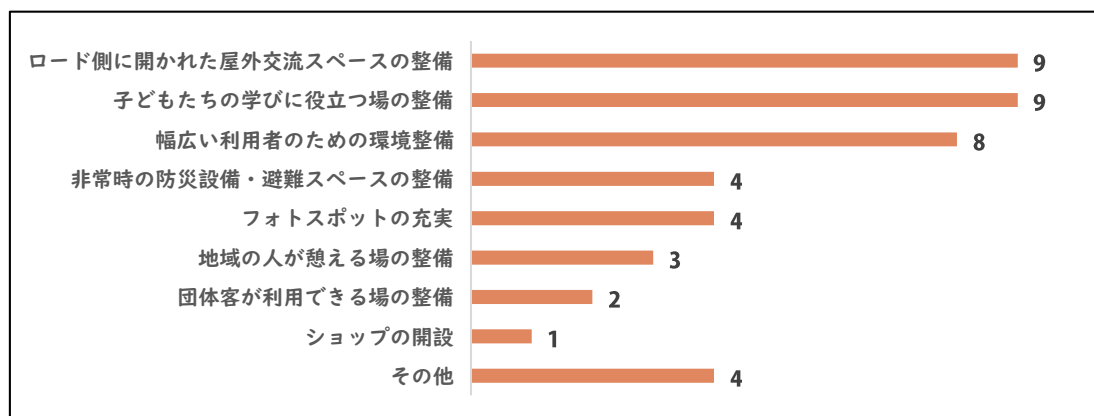


その他の回答・ご意見

- ここに上げられている項目は全てが関連付けされており切り離すことはできないと感じます。「水木しげる記念館」なのですから水木しげる先生や妖怪文化の伝承を基に地域(先生の育った町)の魅力を発信し国内外からの観光客の誘客を図り地域経済を活性化させる、同時に市民(子供たち含む)に上記の歴史、文化をはじめ先生の戦争体験などの学びの場とし町や人に対する意識の向上を目指し、次世代の境港を担う人材の育成に寄与する場、が役割なのではないでしょうか。

C-2. 設備・環境に関して、今後力を入れるべきだと思う項目（3つまで選択）

「水木しげるロード側に開かれた屋外交流スペースの整備」「子どもたちの学びに役立つ場の整備」「幅広い利用者のための環境整備」の回答がとくに多い傾向。

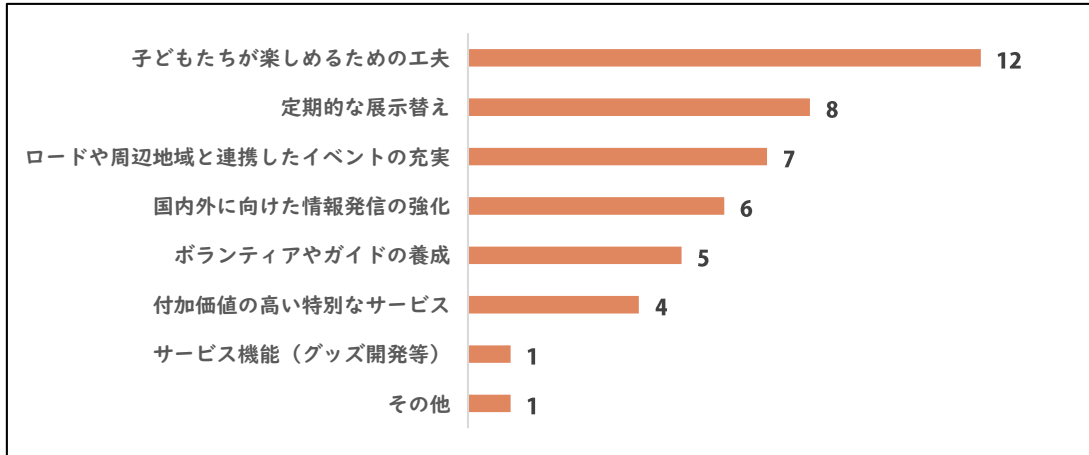


その他の回答・ご意見

- 原画の展示室（保管庫も含む）
- 体験等が出来る屋内スペース(可動式の仕切りでも良いかも)
- 講演、妖怪文化伝承事業、イベント、会議等(数十人程度か)
- スタッフ休憩室 着ぐるみの控室等、労働環境の向上
- ロード内の放送設備の集約化 災害時、緊急時の対応も考慮すると記念館に集中するのが良い
- 休憩スペースの整備（歩き疲れた方のために座れる場所が必要だと思う）
- 屋外スペースへの屋根の設置
- 妖怪（民族）学の伝承を中心とすること

C-3. 活動・運営に関して、今後力を入れるべきだと思う項目（3つまで選択）

「子どもたちが楽しめるための工夫」「定期的な展示替え」の回答が多い傾向。

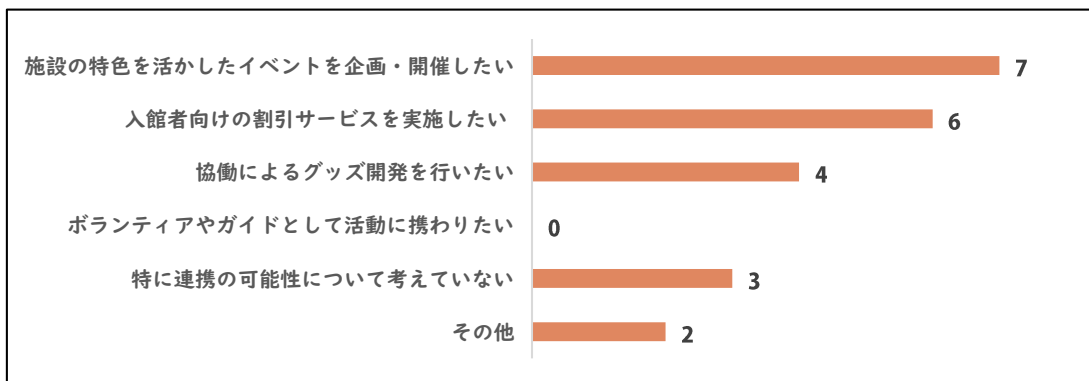


その他の回答・ご意見

- 原画を定期的に入れ替える、その他企画展の実施は必須
- 周辺地域との連携は現在もできている、今後はコアなファンの満足度、新規ファンの取り込みが重要。
- ボランティアやガイドの養成と同じように一般の方（ファン含む）に先生の幼少期、戦争体験、大漫画家時代などの伝承事業の実施
- 期間限定の特別展等の開催

C-4. 新たな水木しげる記念館との連携・協力の可能性について（3つまで選択）

「施設の特徴を活かしたイベントを企画・開催したい」「入館者向けの割引サービスを実施したい」等、連携・協力の可能性について前向きな回答が多い傾向。



その他の回答・ご意見

- 記念館の入館者向けのサービスと同時に、弊社の会員（LINE 等）への割引サービス（相互割引）
- コラボレーションにより双方の集客力、販売力を向上させる事が出来ると考えている。
- 立地的な条件で現在の記念館の建て替えに必要な土地面積を補える可能性がある。

D-1. 再整備に関するご意見・ご要望

主な意見（抜粋）

	ご意見・ご要望
再整備への期待	他の地域にはない水木しげる先生に頂いた財産を、次の世代にも引継いで行く境港の経済活動の施策の柱の一つとしてまた、境港市のシンボルとなる事を新しい水木しげる記念館に期待します。
展示について	- ハイテクなデジタルを活用して妖怪と遊べる空間、また逆に水木先生の幼少期に流った昔遊びを体験できる空間の両方が体験できるといい。 - 水木先生の声が聴ける映像は残してほしい。 - お化け屋敷のような体験型の施設があると集客につながると思います。
企画展示について	- 季節や記念日ごとに企画展示があったら良いと思います。 - 記念館の来館者を飽きさせない工夫を期待します。 - リピーターが来られると「1回目に記念館へ入ったから、今回は行かない」が結構いる。3か月～半年おきにも企画展があれば、リピーター自体が増えると思うし、入館率も上がると思う。
活動・体験について	- 水木先生をよく知る方に語り部となってもらって説明付きで記念館を観覧できると良い。 - 時々、肝試しのような夜の記念館巡りツアーみたいなのをしたい。 - 水木しげるロード関係者や市民向けの水木しげる先生の人生を学ぶ講座などを開催して地元の水木ファンを増やしたい。 - これから先、水木しげる先生や妖怪文化を継承していくためには境港市民に興味をもって、誇りに思ってもらうことが大切だと思う。そのためには観光客だけでなく、市民へ向けたイベント企画などが必要だと思う。
広報・宣伝について	水木しげる記念館再整備後は SNS 等で水木しげるロード先生の情報などを知る機会が増えると嬉しいです。
連携・協力について	当店では、水木作品に関連したものを売ったり販売したりはしていませんが、記念館と連携してお客さんに楽しんでもらうことがあれば協力したいと思っています。
運営について	- 地元の人が無料で入場できる機会を増やしてほしい。 - 読書コーナーおよび庭の無料化の要望が多い。また、現在の場所だと周りが騒々しく、「落ち着いて読めない」という声も多かった。
その他	水木しげる記念館友の会「水木しげる記念館通信」がとてもよかったので、また発行していただきたいです。友の会のクリアファイルは今後も継続してほしいです。

1-4. 既存施設の課題整理

上位計画等の内容等から、水木しげる記念館の強みと課題を整理した。強みとしては、「水木しげる先生」「妖怪」「地域の人々」が一体となり作り上げた、世界に誇る唯一無二のブランド価値があることが挙げられる。課題としては、貴重な作品を適切に扱える環境整備を行うことと、多様な来訪者を集め、その満足度向上を図ることが考えられる。

	内容	
強み	水木しげる先生そのものの魅力	• 波乱万丈の人生から見える、独自の生き方や人生哲学 • 妖怪に姿を与え、妖怪文化を現在に継承した妖怪研究家としての一面 • 妖怪を求めて、世界中を冒険した好奇心
	数多くの魅力的な作品群	• 漫画家として半世紀以上に渡り第一線で活躍 • 幅広い世代に愛されてきた数多くの作品 • 人間味あふれ、親しみのあるキャラクター
	地域と積み上げた活動の知名度	• 水木しげるロードのランドマークとして年間 25 万人が訪れる施設 • 水木しげるロードでは、「妖怪」や「ゲゲゲの鬼太郎」をテーマとした、地域住民の自発的な取り組みでさらに魅力が向上 • 年間 200 万人が訪れる観光都市に地域おこしの成功例として全国的にも注目
	作品世界を実際に味わえる土地	• 水木しげる先生が幼少期を過ごし、見えないものへの興味や好奇心を育んだ境港の自然・文化 • 境港市内には、水木しげる先生にゆかりのあるスポットや観光資源が多数点在（生家、正福寺、鬼太郎列車、米子鬼太郎空港、弓浜半島、境台場公園など） • かつてのノスタルジックさを残し、水木しげる先生の作品の世界観を体感できる水木しげるロード

	内容	
課題	作品の展示・保存環境の整備	• 年々増加する貴重な資料を保存するスペースが不足しており、特に原画資料を適切に展示・保存できる環境が整っていない* • 常設展示を中心とした構成となっており、企画展示室の定期的な展示入替えができていない* • 先進的な技術を用いた利便性の高いコンテンツ導入の遅れ*
	水木しげるロードからの誘客	• 水木しげるロードから水木しげる記念館への取り込みが限定的であり、2回目以降の来館につながる取り組みに課題がある • 境港市内に宿泊施設が少なく、ロードや宿泊施設との連携が十分ではないため、エリアの滞在時間が短く、観光消費額が少ない* • 夜の賑わいを創出する取り組みが不足 • 水木作品に描かれた聖地等、周辺地域への周遊を促進する機能が不足*
	多様なニーズを受け入れる環境	• 団体利用者を受け入れるためのスペースが不足 • 外国人利用者への対応力不足(多言語での表示や音声ガイド、キャッシュレス決済等)* • 多目的スペースや体験型コンテンツ等、何度来ても楽しめる要素が少なく、リピーターを増やしにくい* • 施設の混雑緩和、空調システムを含む換気対策等、感染症予防に対応した大規模な環境整備ができていない*
	事業発展のための充実した運営体制	• 専門知識を有する人材が配置できず、資料の保存管理や、展示替えに課題がある

*：「水木しげる記念館を中核としたさかなと鬼太郎のまち境港市拠点計画」より

1-5. 主要な展示資料・所蔵品の把握

水木しげる記念館が有する主要な資料は以下の通りである。

種類	点数	内容
1. 原画（複製原画含む）	203 点	天才少年画家と騒がれた往年の絵画や、水木作品の大きな魅力の一つである繊細な点描で描かれた原画など
2. 仮面・置物	143 点	水木しげる先生が冒険旅行のために世界各国を訪れ集めてきた精霊や妖怪のコレクションである仮面や置物など
3. 書籍	1,372 冊	妖怪、怪奇、戦記、伝記、古典など、多岐にわたる作品
4. 水木しげる先生の愛用品	92 点	戦地に持ち込んだ文庫本、夫婦で作り上げた戦艦プラモデル、結婚式の時にはめていた義手、墨汁の痕跡が残るシャツなど
5. キャラクターグッズ	480 点	1960（昭和 40）年代の鬼太郎をはじめとするキャラクターグッズなど
6. 既存記念館での展示物	536 点	妖怪の世界観を再現した精巧なフィギュアやジオラマ、水木しげる先生が来館した際に、即興で壁に描いた直筆の壁画など

(1) 原画（複製原画を含む）

境港に帰郷：終戦後、境港の実家に戻ったときに描く。「戦争というハンマーで頭を殴られたような気持ちで、脳みそが思うように働いてくれないのだ」と回想している。



霧の中のジョニー：後に「墓場の鬼太郎吸血鬼エリート」としてリライトされる。



(2) 仮面・置物

妖怪を求めて世界中を旅するなか、各地で買い求めた仮面や置物たち。

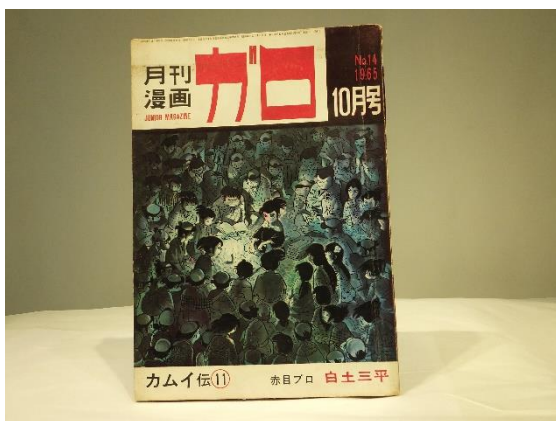
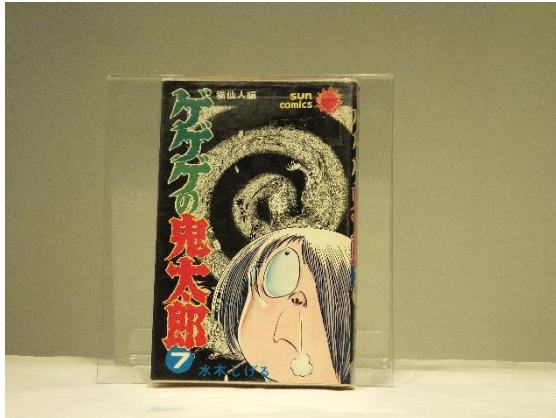


ストーリーボード：パプア・ニューギニアの職人に製作を依頼し、自身の半生を仕立てた。



(3) 書籍

60年間の創作活動で生み出された作品は、妖怪、怪奇、戦記、伝記、古典など多岐の分野にわたり、雑誌や単行本など、様々な媒体で出版されている。



(4) 水木しげる先生の愛用品

プラモデル。



義手：母親から厳命され、結婚式のときだけはめていたが、以後つけていない。



(5) キャラクターグッズ

1960（昭和 40）年代の鬼太郎をはじめとするキャラクターグッズなど、今では手に入れることが難しいであろう貴重な品物を多数保管。



(6) 既存記念館での展示物

「のんのんばあとオレ」「妖怪洞窟」等のコーナーで展示されている数々の妖怪模型



水木しげる先生が来館した際に即興で壁に落書きした直筆壁画



2 新施設の基本理念・基本コンセプト

2-1. 再整備の視点・ターゲット

(1) 再整備の視点

一過性の話題づくりよりも、時代にあわせて地域と施設がともに成長し、持続的ににぎわいづくりで、境港市の文化として根付く再整備を目指す。

1. 施設の視点

水木しげる先生の価値を継承し、次代につなぐ「ふるさと境港」だからできる記念館づくりを行う。「水木しげる先生」を伝える唯一の記念館として、貴重な原画や資料を守り、多くの人々に伝えるための環境整備など、記念館としての機能をより強化することを目指す。

2. 活動の視点

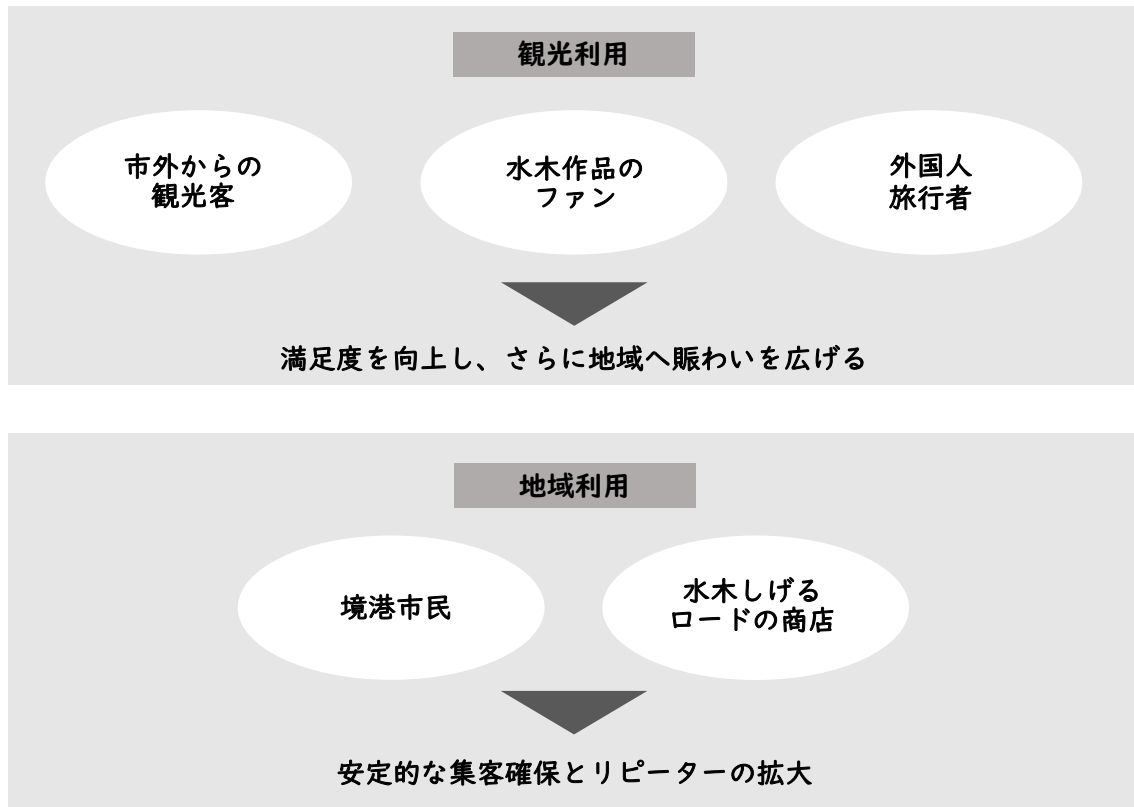
多様な来訪者のニーズを満たす活動づくりで、地域利用と観光利用をより一層促進する。持続的ににぎわいを生み、安定した集客を続けるために、地域住民と国内外の観光客を重点ターゲットとし、多様なニーズを想定した事業活動の計画や施設環境を整備することで、より一層満足度を高め、何度も訪れたくなる施設を目指す。

3. 連携の視点

多様な主体と連携し、時代に沿った柔軟な事業拡大へとつなげる関係づくりを行う。水木しげる記念館を拠点として、地域、市域、圏域など、ネットワークを強化することで柔軟な事業発展を行う。多彩な連携により滞在時間延長や周遊促進を図り、市域全体に経済効果を広げることを目指す。

(2) 主なターゲット

現在の入館者の中心である観光利用客に向けては、満足度を向上させることで、さらに地域へ賑わいを広げるとともに、今後は地域利用の視点も重視し、安定的な集客確保とリピーターの拡大を目指す。



2-2. 基本理念

(1) 基本理念（目指す施設像）

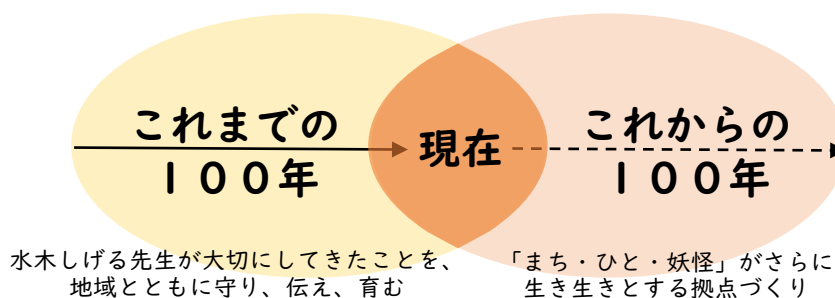
既存施設の課題と、再整備の視点を踏まえた水木しげる記念館の基本理念を以下のように設定する。

時代の節目である生誕100周年の今、水木しげる先生が大切にしてきたことを地域と共に守り、伝え、育んできたこれまでの100年を継承し、これからの100年も「まち・ひと・妖怪」がさらに生き生きとする幸福な出会いが訪れる施設づくりを目指す。

地域が共に協働し、持続的な活動を行うことで、水木しげる先生の創作活動の原点である地で「文化」として根付くこと、市内外や国内外から多くの人々が訪れ、「観光」の側面でも賑わいを創り出すこと、その両面からの拠点づくりを目指す。

■基本理念（目指す施設像）

水木しげる先生が歩んだ100年を継承し
次の100年へ想いをつなげる **文化観光創造拠点**



2－3．基本方針

(1) 施設の方針

ホンモノを扱う記念館へ、施設機能の強化を目指す。

1．貴重な資料を「守る」保管環境の整備

資料の適切な保管環境や適正な面積規模を検討し、施設全体で「包んで守る」発想で、貴重な原画や実物資料を安全に保管する施設計画へつなげる。また、既存の先生直筆の壁画を安全に保存し移設する計画を検討する。

2．資料の価値を「魅せる」展示の整備

水木しげる先生の波乱万丈な生涯と、そこから生み出された個性的な作品の価値をさらに魅力的に伝える展示のあり方を検討する。貴重な原画や実物資料を公開するための展示環境を整備し、ホンモノ志向の記念館づくりを計画する。

(2) 活動の方針

水木しげるロードと一体となる開かれた場と活動づくりを目指す。

1．ロードとつながり、さらに活性化。多様な来訪者が集まり交流できる場

多様な活動を支え、地域の人々が何度来ても飽きずに楽しめる場の整備と、運営のあり方を計画する。とくに、コロナ後の外国人旅行者や団体利用者など、多様な来館者に対応できる施設機能の強化を検討する。

2．施設周辺を「水木しげるフィールド」へ

水木しげるロードのにぎわいをさらに高め、その充実を市域に広げる活動を計画する。周辺地域を広く「水木しげるフィールド」として位置付け、市域に残る資源とつなげて活動の場を広げる。水木しげるロードのにぎわいを周辺に拡張し、まち巡りをしながら市内への周遊を促し、経済効果を高める。

(3) 連携の方針

多様な主体を結び、発展し続ける連携づくりを目指す。

1. 関係団体、地域の人々ともに発展していく多様な活動

現在ある課題を解決し、地域の強みをより活かすために、関係団体やロードの商店街の人々の意見を反映し、地域の実情に沿った活動計画を検討する。関係団体や周辺地域と密に連携することで、時代の流れに柔軟に対応し、持続的にぎわいをつくる体制構築を図る。

2. 市域・圏域へ経済効果を広げる連携づくり

市内外の多様な施設や団体との連携を強化し、境港市、中海・穴道湖・大山圏域へにぎわいを広げる。連携を通じた多彩な活動で、市域・圏域への一層の経済効果の波及を目指す。

2-4. 基本コンセプト

(1) 基本コンセプト

行き交う、つながる、混ざり合う

「境」からはじまる新しい出会い

古くから海と陸の「境」として物質・文化の流入基地として栄え、新しいものを受け入れる人々の気質も相まって、唯一無二のまちへと進化してきた境港。そして、人間界と霊界の「境」、実体験と創作の「境」、生と死の「境」、古来の妖怪文化と新たな漫画表現の「境」。水木しげる先生は様々な「境」から独自の世界観を創造してきた。

すぐ隣り合わせにある世界が行き交い、つながり、混ざり合う。かつての日本の姿を思い出させる懐かしさが残るこのまちで、今まで見えなかったものに出会う場所としての「境」を施設の基本コンセプトとする。

3 事業活動

3-1. 施設における事業活動

前述した基本コンセプトに基づき、以下の 5 つの事業展開を検討する。各事業はそれぞれが個別に機能しながら、活動内容に応じてその境界が混じり合うことで、時代やニーズに合わせて柔軟な活動が行われるように設定する。

■ 5 つの事業活動内容

【守る】 資料保管

貴重な原画やコレクションに加え、水木しげる先生の魅力を発信するための幅広い資料を保管する。

【魅せる】 展示・公開

「水木しげる先生」を伝える唯一の記念館として、より多角的な視点から水木しげる先生の魅力を伝える展示を行う。

【誘う】 観光振興

境港市の文化観光創造拠点として、地域の魅力を向上し、地域の経済活性に貢献するための取り組みを展開する。

【交わる】 創造・交流

幅広いターゲットに向けて、楽しみや学びが広がる場や活動を充実させ、より集客力を高めるための事業を展開する。

【結ぶ】 連携・協働

市内外の様々な施設・団体・企業等との結びつきを強化し、さらなる持続発展を目指す。

4 管理運営の考え方

4-1. 基本方針

(1) 持続的な事業活動のための運営体制づくり

貴重な資料への適切な保管管理や展示、地域と連携した活動展開への対応など、持続的な事業活動に則した運営体制づくりを検討する。

(2) 地域利用と観光利用を両立する運営

何度も訪れたい施設とリピーター獲得を目指し、地域利用と観光利用双方を重視した運営を行う。地域利用では、市民が気軽に普段使いできるよう、親しみやすくきめ細かな運営を行う。観光利用では、より満足度の高いサービスを提供できるよう、現状の運営を拡張・発展させ、集客力をさらに高める運営を行う。

(3) 多様な連携先とのネットワーク構築

市域、圏域をはじめとする多様な団体等とこれまで培ってきた関係を維持、発展させ展開するなど、より活発な連携を図る。将来的な運営を支える人材の発掘・育成を視野に入れた連携を図る。

(4) 誰もが利用しやすい開館時間、入館料等の設定

現状維持を基本として、多くの人々が利用しやすいよう、利用者の立場に立った開館時間や入館料等を検討し、利用者のニーズと合わせて柔軟な運営を検討する。

(5) 継続的な活動や運営ノウハウが維持できる運営方式

サービスの維持向上のため、スタッフが中長期にわたり活動でき、運営ノウハウが維持・継続されることに留意して運営方式を検討する。

(6) 水木先生や作品への理解が深い人材による運営

水木先生や作品に関する理解や知識を有する人材を雇用・育成し、展示づくりや資料の適切な管理等、水木しげる記念館の魅力を高める施設運営を行う。

水木しげる記念館基本構想・基本計画策定業務

基本計画

(案)

令和4年5月

境港市

目次

1 事業計画

1-1. 事業の全体像	1
1-2. 【守る】資料保管事業	2
1-3. 【魅せる】展示・公開事業	3
1-4. 【誘う】観光振興事業	4
1-5. 【交わる】創造・交流事業	6
1-6. 【結ぶ】連携・協働事業	7

2 施設計画

2-1. 敷地計画	9
2-2. 必要な施設機能	10
2-3. 諸室	11

3 展示計画

3-1. 展示の構成	15
3-2. 常設展示	16
3-3. 原画展示・企画展示・屋外展示	20
3-4. イベント計画	21

4 その他の事項

4-1. 感染症対策	22
4-2. 景観	23
4-3. 防災	24

5	管理運営計画	
5-1	管理運営方法	25
5-2	組織体制・人員配置計画	26
5-3	什器・備品整備	27
5-4	維持管理	27
5-5	広報計画	28
6	収支計画	
6-1	建設費・施設運営経費等	29
6-2	入館者数見込み、入館料物販販売収入等	30
7	工程計画	
7-1	整備工程（案）	32

Ⅰ 事業計画

Ⅰ－Ⅰ．事業の全体像

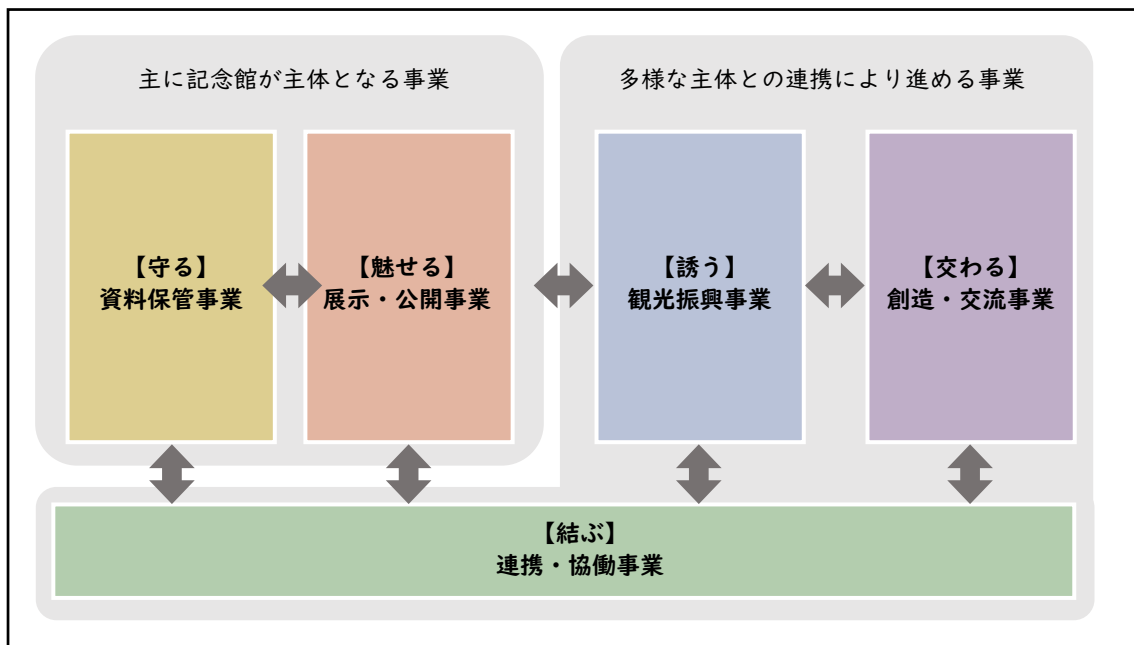
(Ⅰ) 事業計画の考え方

水木しげる記念館は水木しげるロードの一部であり、周辺地域と一体となった事業活動が期待される。したがって、各種事業を展開する上では、館単体での事業だけではなく、市や関係機関との連携・協働が必要な事業も想定される。

上記を踏まえて、基本構想で掲げた5つの事業「資料保管事業」「展示・公開事業」「観光振興事業」「創造・交流事業」「連携・協働事業」を展開する。さらに、各事業方針が融合することで、多角的な魅力をもつ事業活動へと発展させることを目指す。

活動内容によって、水木しげる記念館が主体となるもの、市が主体となるもの、関係団体や関係機関との連携が必要となるものなどが考えられるため、内容に応じて住み分けをしながら活動を展開していくものとして検討する。

このような事業活動を展開することで、国内だけでなく海外からの来訪者も水木作品の世界観に親しめ、文化、観光の両面から楽しみながら体験できる多彩な事業活動の展開を目指す。



1-2.【守る】 資料保管事業

(1) 資料保管の方針

1. 水木しげる先生の魅力を伝える多様の資料を適切に保管

現況施設では、水木しげる先生の生涯を物語る愛用品や世界各国で買い求めてきた精霊や妖怪のコレクション、ゲゲゲの鬼太郎をはじめとするキャラクターグッズ等、水木しげる先生の魅力を伝える資料を多数保管しているが、設備環境が整っていない状況にある。新施設では、これらの資料をより適切に保管できる環境を整える。

2. 貴重な原画資料を適切に管理するための「環境」と「人」をセットで検討

企画展示の開催等のために原画資料を取り扱うことができるよう、展示室内の適切な温湿度管理、照度調整できる環境や、原画を保護する収蔵スペースの確保、保管する際の照度の調整など、保管環境を整える。また、水木作品についての豊富な知識を持つとともに、美術作品としての原画の取り扱いなど専門性を有する学芸員など、資料を適切に管理できる職員の配置を検討する。

3. 記念館の特徴でもある先生直筆の壁画の活用方法を検討

水木しげる先生が現況施設に直筆された壁画について、使用材料や現状のコンディション等を確認した上で、適切な公開の仕方や保存方法を検討する。

(2) 事業活動例

1. 資料保管

資料特性に応じた適切な保管環境と、専門性を有する人員体制を整え、水木しげる先生にまつわる貴重な資料を守る。

2. デジタルアーカイブの構築

収蔵資料のデジタルアーカイブを構築し、数ある資料を整理し保管する。また、保管資料がより多くの人々に活用されるための取り組みを行う。

3. 直筆壁画の活用

水木しげる先生が施設内に直筆された大型の壁画（9点）を保存し、新施設でも再度展示物として活用する。貴重かつ重要な展示資料として位置づけ、展示室内で象徴的に展示するなど、設計段階で魅力的な展示手法を検討する。



1-3.【魅せる】 展示・公開事業

(1) 展示・公開の方針

1. ホンモノの魅力に出会う展示

水木しげる先生が描いた原画、大切に愛用していた品々、集めたコレクションなど、本物の資料をより多くの人に向けて展示・公開するための事業を行う。魅力的な展示によって水木しげる先生の息遣いをすぐそばに感じられる展示を目指す。漫画や妖怪画などの作品を中心に、波乱万丈な水木しげる先生の人生（戦争体験、冒険家、人生論等）の多様なテーマの展示を検討する。

2. 水木しげるロード・境港とまじわる展示

水木しげるロードから一続きに来訪者を引き込む「屋外展示」など、境港の水木しげる先生にゆかりのあるスポットと調和する展示を目指す。

3. いつ来ても新しい発見に出会える展示

展示の更新性を意識し、多作であった水木しげる先生の多岐に及ぶ作品を公開できるように整備する。多くの資料を有する水木プロダクションをはじめとして、地域や関係各所とのつながりを強化し、原画や多様なテーマで展開する企画や展示など、何度来ても飽きさせない展示を目指す。

(2) 事業活動例

1. 常設展示

水木しげる先生の人生をたどり、世界観や作品、生き方等から「水木しげる先生」を伝える常設展示室を整備する。

2. 企画展示

さまざまな資料に対応する企画展示室を整備し、多彩なテーマで水木しげる先生と作品の魅力を伝える企画展示を開催する。

3. 原画展示

原画資料等が展示可能な設備環境の展示室を整備し、貴重な資料を積極的に公開する。

4. 屋外展示

水木しげるロードから水木しげる記念館へ立ち寄りたくなる仕掛け、市内外からの誘客や話題づくりのきっかけとなるよう、フォトスポットになるような展示を屋外に展開する。

Ⅰ－４．【誘う】 観光振興事業

(Ⅰ) 観光振興の方針

Ⅰ．連携を通じた多彩な活動で市域・圏域へ経済効果を広げる

当施設の大きな強みである知名度やブランド力を活かし、市内外の多様な施設や団体との連携を強化し、水木しげるロード、境港市内、中海・宍道湖・大山圏域へとにぎわいを広げるための活動を支援する。連携を通じた多彩な活動により、市域・圏域への一層の経済効果波及の一助となる施設を目指す。

Ⅱ．水木しげるロードと記念館を一体的にとらえ、双方の魅力が向上するしかけづくり

水木しげるロードの始点である、みなとさかい交流館等の水木しげるロード各所における展示・情報発信など、記念館も水木しげるロードの一部と捉えた活動を展開する。また、記念館へのさらなる集客や水木しげるロードからの取り込みを増やすため、記念館を訪れた来館者への自然と記念館へ足を踏み込んでしまう仕掛けや、イベント開催に併せた特典提供など、施設周辺やロードを散策しながら一体的に楽しめる仕掛けを検討する。なお、イベント開催等の検討にあたっては水木しげるロード振興会や関係機関と協議し、企画・運営を行う。

Ⅲ．境港の魅力を楽しみ尽くせる多彩な取り組み

水木しげる先生のふるさとである境港の魅力を伝え、楽しみ方を広げる多彩な取り組みを展開する。例えば、旅行代理店等と連携し、水木しげる先生の作品や体験談等と関連づけた聖地ツアーや観光コース、漫画や妖怪をはじめとする日本文化の体験とひもづけた海外旅行者向けの観光プログラム等への組み込み拡大を図る。

(Ⅱ) 事業活動例

Ⅰ．周遊促進

境港観光協会や水木しげるロード振興会等と連携し、周遊の一拠点として、周遊ツアーや夜間イベントへの協力、館内外での観光情報発信等を行い、周遊観光の促進を図る。

Ⅱ．ショップ

水木しげるロードの商店と競合とならないミュージアムショップのあり方を検討する。オリジナル商品の開発を行い、「記念館らしさ」や「境港らしさ」を活かす工夫を施す。

3. 広報活動

ウェブサイトの充実や SNS を活用した話題づくり等、効果的・効率的な広報活動を展開し、幅広いターゲットに向けて利用促進を図る。積極的な広報活動によって、個人や企業のファン・サポーターの獲得を目指す。

4. サテライト展示

みなとさかい交流館、水木しげるロードの空き店舗や空き地・路地裏等を活用し、サテライト展示等を検討する。

Ⅰ－５．【交わる】 創造・交流事業

(1) 創造・交流の方針

1. 地域利用と観光利用の双方を強化

施設のより一層の賑わいの創出と持続的な活動展開を目指し、これまでの入館者数の中心である観光利用だけでなく、地域に住む人々の利用促進強化を図る。各主体と連携した交流を促すイベント等の展開により、市民の方が何度も足を運びたいくなるような、安定的で持続的な集客の底上げを目指す。

2. 多様な来館者ニーズに応えるさらなる取り組みの充実

ターゲットの拡張に伴い、これまで以上に多彩な活動を展開する。水木しげるロードをはじめとした地域との連携を基盤に、観光客と地域の人々が交流できる催しの開催や、地域住民に向けた活動プログラムの実施など、観光・地域双方の来館者ニーズに合わせた記念館の多種多様な楽しみ方をつくり、発信していく。

3. 運営への市民参加や長時間滞在など記念館の利用方法を拡大

水木しげる記念館を利用しやすい場づくりや、長時間滞在いただける工夫、継続的に利用したくなる工夫、施設の活動に市民が参加できるしくみなどを検討し、記念館と様々な関わり方ができるようにする。

(2) 事業活動例

1. ライブラリーの運営

ライブラリーを整備し、膨大な水木作品や関連する書籍等を配架するほか、デジタルアーカイブを閲覧できる設備を整える。地域の人々や子どもたちが利用できる場とする。

2. 各種イベントの企画運営

多目的スペースを整備・活用することで市民や地域の団体、鳥取県など、多様な主体と連携し、多様なニーズに応えるプログラムを企画・実施する。イベント計画にあたっては、市内で行われている観光イベント等との連携やすみ分けを考慮して行う。

3. 人材育成

市民や地域の団体等、多様な主体と連携し、講座・ワークショップやガイドツアー等の担い手となる人材を育成する。

Ⅰ－６．【結ぶ】 連携・協働事業

(1) 連携・協働の方針

Ⅰ．今あるネットワークを強化し相互の魅力や集客力を向上

水木プロダクション・境港観光協会・水木しげるロード振興会のほか、関連施設、類似施設、周辺施設等との連携を強化。相互の魅力向上や集客向上につながる活動を企画・展開する。

Ⅱ．新たなネットワークを開拓し新たな魅力を発見・創出

さらなる観光振興に向けて、より広域かつ幅広いジャンルの団体・企業との関係構築を図る。「水木しげる」を深掘りする多様なテーマから連携先を開拓し、新たなコラボレーションから新たな魅力を創出する。

Ⅲ．オンラインのネットワークを拡充し施設活動の幅を拡張

オンラインを活用し、全国・世界に向けた記念館の情報発信や、全国・世界とつながる活動を展開する。感染症の再拡大などによる閉館時も記念館を楽しんでいただけるような下地をつくるとともに、施設活動の幅を広げる。

(2) 事業活動例

Ⅰ．ネットワーク構築

各事業を支え、持続的な発展へつなげるために、水木プロダクション、境港観光協会、水木しげるロード振興会、他施設等とのネットワーク構築を深めるとともに、新規の協働先や連携先の開拓等も行う。

(2) 各事業における連携・協働

各事業活動は、地域や市民、鳥取県など多様な主体との連携・協働することを前提として計画を進める。

資料保管事業および展示・公開事業は、水木プロダクションとの密な連携・協力のもと、水木しげる記念館が主体となっていく。「企画展示」に関しては、周辺施設等との企画展の共催など、水木しげる記念館以外の施設が主体となっていく場合も想定して検討する。

観光振興事業および創造・交流事業は、境港観光協会や水木しげるロード振興会をはじめとする地域の各主体との連携・協力を特に重視して展開する。「周遊促進」「各種イベントの企画運営」「人材育成」に関しては、市内で既に行われている観光振興事業や市民活動等と協力し、地域の多様な主体が中心となっていく活動を展開できる仕組みを検討する。

	水木しげる記念館が 主体となっていく活動	特に多様な主体との 連携・協働が必須な活動
資料保管 事業	・ 資料保管 ・ デジタルアーカイブ ・ 直筆壁画の活用	-
展示・公開 事業	・ 常設展示 ・ 企画展示（自主企画の場合） ・ 原画展示	・ 企画展示（※周辺施設等との共催や巡回展等の場合を含む）
観光振興 事業	・ ショップ（※運営方針による） ・ 広報活動 ・ サテライト展示	・ 周遊促進
創造・交流 事業	・ ライブラリーの運営	・ 各種イベントの企画運営 ・ 人材育成

2 施設計画

2－1．敷地計画

(1) 敷地概要

所在地	鳥取県境港市本町 5 番地
敷地面積	1643 m ²
用途地域	商業地域
防火地域	準防火地域
建ぺい率	80%（建築可能建築面積：1314.4 m ² ）
容積率	400%（建築可能延床面積：6572.0 m ² ）
所有者・管理者	境港市

(2) 周辺地域の概要

周辺地域の概要は以下の通り。

- ・半島に沿って東西に流れる境水道と並行している水木しげるロードが敷地と境港駅をつなげている。
- ・本施設南側：前面道路を挟んで観光客用の商店が並ぶ。
- ・本施設北側：商業施設（ゲゲゲの妖怪樂園）が隣接する。
- ・本施設東側、西側：商業施設、住宅、駐車場が隣接する。



2-2. 必要な施設機能

(1) 各事業における必要な施設機能

各事業において必要となる施設機能は以下の通りである。

1. 資料保管事業

- ・ 資料を適切に保管するスペース・設備
- ・ 原画資料等の特に繊細な資料を適切に保管するために、温湿度管理ができる環境・設備
- ・ 企画展示等のために借用した資料を一時的に保管するスペース
- ・ 資料を整理し、展示の準備を行うスペース
- ・ 館内で安全に資料を移動するための専用の動線など
- ・ 資料アーカイブを閲覧するスペース・設備

2. 展示・公開事業

- ・ 常設展示を行うためのスペース・設備
- ・ 企画展示を行うためのスペース・設備
- ・ 温湿度管理が可能な空調設備を備えた展示スペース・設備
- ・ フォトスポットとなるような写真映えする展示

3. 観光振興事業

- ・ 水木しげるロードと一体的に賑わいを生み出すスペース・設備
- ・ 地域の魅力や情報を発信するスペース・設備
- ・ 関連書籍、ミュージアムグッズ等を販売するスペース・設備
- ・ 誰もが気軽に休憩できるスペース・設備

4. 創造・交流事業

- ・ 多様な主体と連携するイベントを開催できるスペース・設備
- ・ 水木しげる先生の書籍等を気軽に読めるスペース・設備
- ・ 学校団体等の受け入れ、講座等を行うことができるスペース・設備

5. 連携・協働事業

- ・ 関係者が集まり打合せ等を行うスペース・設備

2－3．諸室

(1) 現状の諸室構成

現在の諸室構成は以下の通り。常設展示が階ごとに配置されており、入口からまず2階に上がって常設展示を回り、1階に降りて常設展示の続きに移る。そして、中庭を通りながら最後に企画展示室を見る一方通行の動線と諸室構成となっている。資料等の保管についてはバックヤードを利用している状況。記念館になる前は料亭だったこともあり、保管庫のような諸室は有していない。

■現在の諸室と面積

施設機能	諸室名	面積
展示	1F 常設展示室(バックヤードを含む)	473 m ²
	企画展示室	50 m ²
	2F 常設展示室	206 m ²
共用	ゲゲゲの玄関	70 m ²
	水木ギャラリー	47 m ²
管理	事務室	35 m ²
	倉庫・収納	50 m ²
その他	男性用トイレ・女性用トイレ・多目的トイレ・授乳室・ロッカー・エレベーター・階段・風除室	187 m ²
	地階	45 m ²
合計		1,163 m ²

■その他面積

外部	前庭	33 m ²
	中庭	180 m ²
	回廊	93 m ²
別棟	トイレ	66 m ²

(2) 諸室構成・諸室規模

諸室構成は以下の通り。限られた敷地面積を最大限有効活用することを基本に、施設全体の規模を検討する（屋外交流スペースの面積は施設面積に含まない）。既存の常設展示室と同等の展示面積を確保し、団体受入、イベント対応ができる多目的スペースを配置する。なお、必要性に応じて周辺スペースの利活用も今後検討する。

施設機能	諸室名	概要・与条件等	諸室規模
資料保管	資料保管庫・一時保管庫	所蔵資料の保管・保存をおこなう。	150 m ²
	搬入口・荷解室・搬入通路	資料の搬出入を安全におこなうための設備を備える	
展示・公開	常設展示室	多角的なテーマで先生の生涯をたどる展示室。	850 m ²
	企画・原画展示室	所蔵資料や借用資料を定期的に展示替えし、資料を公開する。	
	ホワイエ	照度を抑えた企画・原画展示室へ入る際の暗順応に配慮したスペース。	
	展示準備室	収蔵庫の前室。展示の準備作業をおこなう。	
観光振興	エントランスホール	施設の受付、施設の情報発信等をおこなう。	100 m ²
	ミュージアムショップ	関連書籍、ミュージアムグッズ等の販売をおこなう。	
創造・交流	屋外交流スペース（広場） ※面積は含まず	水木しげるロード側に開かれた広場。屋外イベント等多彩な活動をおこなう。	100 m ²
	ライブラリー	来館者が自由に水木しげる先生に関する情報を検索・閲覧する。	
	多目的スペース（団体受入スペース）	各種講座やワークショップ等を実施する。修学旅行生等の団体の一時受け入れスペース等にも使用する。	
連携・協働 ／管理運営	会議室等	会議、控室、準備等の利用。	150 m ²
	事務室・更衣室		
	書庫・倉庫等	備品・グッズの在庫の収納スペース。	
その他 ・共有	トイレ・授乳室・ロッカー・ 階段・エレベーター・機械室・ EPS 等		250 m ²
合計			1600 m ²

(3) 諸室連関・動線の考え方

1. 地域にひらかれた施設づくり

水木しげるロードから見える入口に、だれもが気軽に入り楽しめる屋外交流スペース（広場）を整備する。屋外での活動を通して水木しげるロードの来訪者に施設の興味を促し、ロードからそのまま施設の中に入り込むように自然に誘導できるよう配慮する。

また、地域の人々や子どもたちが利用できるライブラリーなど、施設内の交流を促す機能を隣接させ、屋内外のにぎわいを一体化することで観光客・地域住民が利用しやすい、開かれた場として整備する。

2. 来館者動線と管理・資料動線の仕分け

来館者動線と管理・資料動線を区分して諸室配置を計画する。特に資料動線をしっかりと確保することで、資料の搬入出時に来館者の動線と重ならないように配慮するものとする。

3. 多様な来館者の受入れ

個人の来館者でなく、修学旅行目的などの団体利用の対応をスムーズにできるよう大人数の受け入れ場所として多目的スペースを配置し、遠方からの観光客などに周辺観光促進を図る。また、障がいのある方や乳幼児を連れた方々など、だれもが利用しやすい環境を整備する。

4. 常設展示室のリニューアル

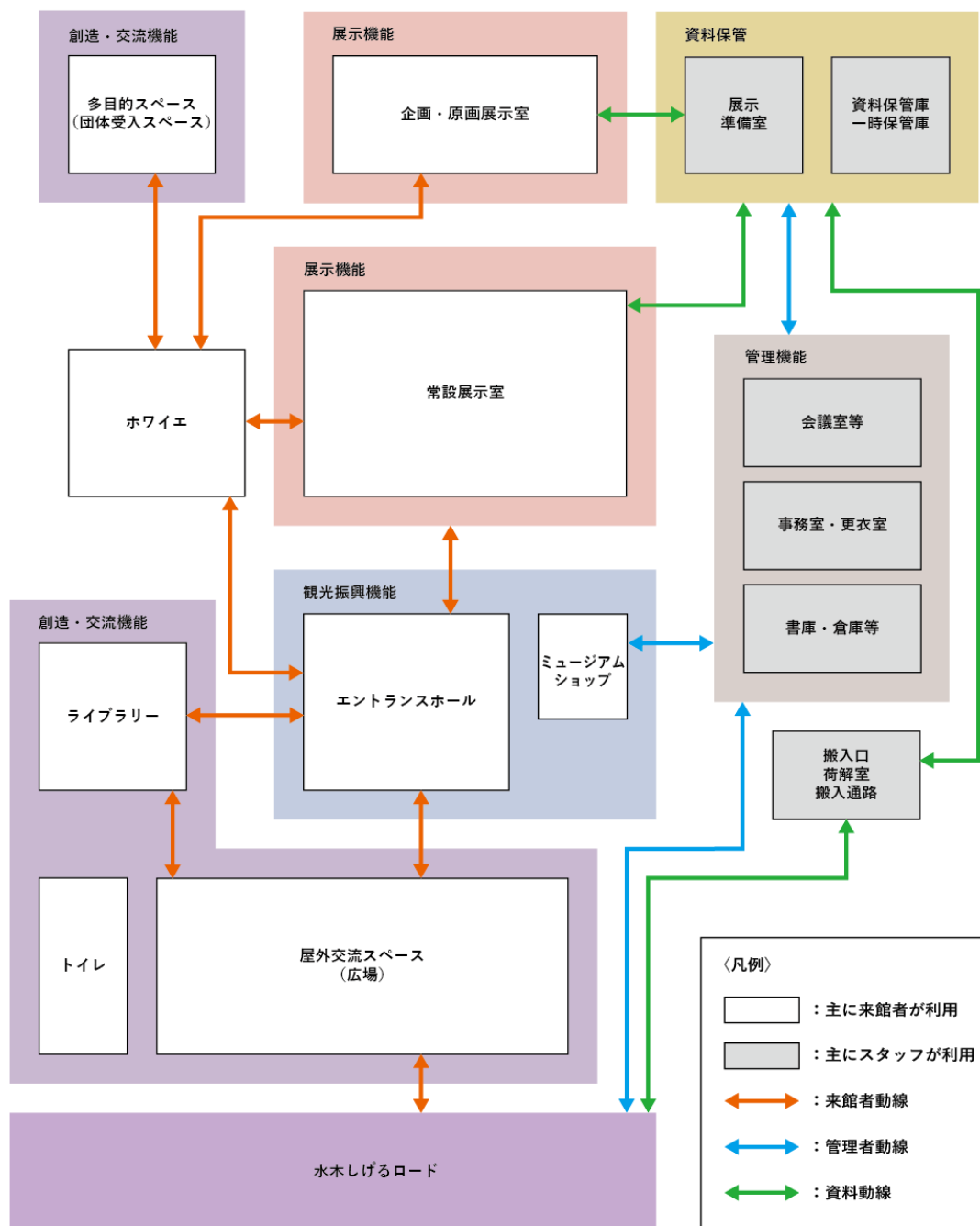
既存の施設から常設展示室のあり方を継承・再検討し、水木しげる先生について多角的なテーマで充実した展示のリニューアルを行う。

常設展示室はまとまった面積を確保し配置する。展示構成の配分や展示手法、展示物のレイアウトなど、多様で充実した展示づくりに柔軟に対応できるように、可能な限り有効面積が大きくなるように配置することが望ましい。また、奥まった場所に配置することで、展示室内に外光の影響が極力ないよう配慮する。

5. 貴重な資料の管理

作品や資料を守る資料保管庫・一時保管庫は2階に計画し、水害などから作品を守る。また、原画保存の観点から、展示においては、別室として原画展示室と企画展示室を設け、それぞれの展示に適した環境を整備する。

■諸室関連イメージ



3 展示計画

3-1. 展示の構成

(1) 展示の基本的な考え方

1. 行き交う人の目を引く屋外展示

水木作品に登場する人気キャラクター等を使った屋外展示を展開する。来館者の目を引き、お出迎えと水木作品の世界観を味わう始まりの場所として整備する。

2. 「水木しげる先生」を伝える常設展示

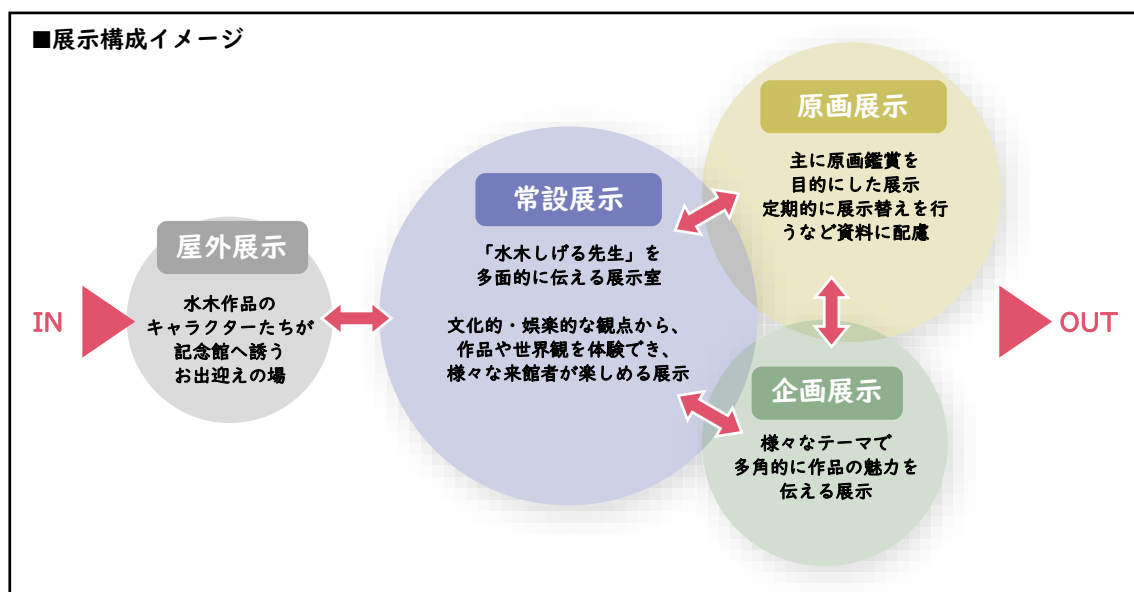
特定の作品だけを扱う展示ではなく、水木しげる先生を伝える展示を展開する。水木しげる先生の人生や生き方を多面的に紹介するテーマを設定し、来館者の興味や知識に応じてそれぞれが楽しめるよう配慮する。文化的な観点と娯楽的な観点から展示手法を検討する。

3. 原画そのものを楽しむ展示

主に原画を鑑賞する場所として原画展示室を設置する。水木しげる先生が残した数々の原画を展示することで、ファンや観光客に対しての満足度向上を目指す。なお、原画への影響を最小限にするため、定期的な原画の入替えを行う。

4. 多角的な魅力と新鮮さを提供する企画展示

常設展示と異なる切り口や、深掘りしたテーマ、多様な主体とのコラボレーション等によって、多角的に水木作品の魅力を発信する。多くの来館者に対して来るたびに新鮮な印象を残すことで、リピート利用促進を図る。



3－2．常設展示

(1) 展示方針

1．水木しげる先生の人生をひもとき人物像に迫る展示構成

水木しげる先生の波乱万丈な人生を丁寧にひもとき、漫画家、妖怪研究家などの多様なテーマに渡る先生の色々な顔と、揺るぎない「幸福」への思想を伝える展示を検討する。

2．多様な利用者層を想定しだれもが興味をもち楽しめる展示

時代とともに進化し、幅広い世代を魅了し続けた水木しげる先生の世界。様々な深度でその魅力を表現し、コアなファンから、作品に触れたことのない人まで、だれもが興味をもって楽しめる展示を検討する。オーディオガイドや多言語表記等、展示解説に工夫を施し、わかりやすく伝えるための工夫を取り入れる。

3．既存展示と最新技術を融合し、ミュージアム性とテーマパーク性を持ち合わせる展示

現在の記念館で特に人気の高い妖怪模型等の既存展示を発展的に活用。ミュージアム性とテーマパーク性のバランスに配慮し、妖怪が展示室の至る所で神出鬼没に姿を現す演出など、妖怪の存在をすぐそばに感じられる工夫を検討する。

(2) 展示テーマ・展示構成

水木しげる先生の世界観（水木ワールド）に入り込み、水木しげる先生が歩んだ約100年の人生をたどりながら、個性あふれる魅力に出会う展示構成とする。

常設展示は大きく、プロローグ展示、テーマ展示、エピローグ展示で構成し、水木しげる先生の歩みと多種多様な作品等を多角的に紹介する展示を展開する。

なお、下記の構成については要素と概要を例示したものであり、設計段階で再度検証することにより魅力的な展示づくりを目指す。

■常設展示の構成イメージ

【プロローグ展示】

1. 水木ワールドへようこそ！

【テーマ展示】

2. 境港と水木しげる

3. 戦争と水木しげる

4. 漫画家・水木しげる

5. 妖怪研究家・水木しげる

【エピローグ展示】

6. 水木しげるの幸福論

1. 水木ワールドへようこそ！

水木ワールドの世界観に入り込み、気持ちを高めるスペースを検討する。水木しげる先生が生み出したお馴染みのキャラクターや妖怪たち、そして様々な時代を生きた水木しげる先生に出会う場として整備する。

2. 境港と水木しげる

全ての原点となった幼少期の境港での体験や、ベビィのときから変わらぬ水木しげる先生の人となりや、のんのんばあとのエピソードや収集したコレクション、絵画作品等を通して伝える。水木しげる先生が描いた境港を知ること、境港の自然や文化を再発見できる展示を目指す。

3. 戦争と水木しげる

水木しげる先生の人生観を変えた戦争体験と、その体験があったからこそ描けた戦記漫画を、印象的な台詞とともに紹介。先生が描いた戦争の空しさや不条理さ、そして、自然へのまなざしや原住民との交流の中から取り戻した生きる力を伝える。

4. 漫画家・水木しげる

紙芝居作家として画業を始め、貸本漫画家として貧乏時代を生き抜き、一躍人気漫画家となった60年間の創作活動にフォーカスを当て、各時代を物語る実物資料や個性的な作品の世界を伝える。水木しげる先生の書斎を再現し、造形と映像を組み合わせることでそこに水木しげる先生がいるかのような演出を施す。

5. 妖怪研究家・水木しげる

見えない妖怪たちに姿を与え、妖怪文化を現代へと継承した水木しげる先生の功績と創造性を伝える。暗闇に包まれた空間の中に、水木しげる先生が甦らせた数々の妖怪たちが姿を現すなど、多種多様な妖怪を感じられる展示を行う。また、多数の民芸品や記録資料とともに、世界の妖怪文化を調べるため冒険旅行を続けた探求心・好奇心を伝える。

6. 水木しげるの幸福論

水木しげる先生流の人生訓が語られた名言・迷言を受けて、先生が問い続けた「幸福」を考える展示。来館者が水木しげる先生へ宛てたメッセージを寄せる仕掛けを施す。

■展示室イメージ

ミュージアムのような雰囲気
の展示室のイメージ。

数々の貴重な作品や資料を
シーン再現やケース展示と組み
合わせながら印象的に展示す
ること、水木作品のファンに
対しては深い理解を、初めて
訪れた観光客には興味関心
をもってもらえるよう配慮
する。



娯楽性・体感性の高い展示の
イメージ。

展示室の限られた面積を有効
活用し、多くの観光客が楽し
めるようにする。

例えば、遊歩道型のシアター
のように移動しながら体験
でき、できるだけ滞留を回避
できるような展示手法を検討
する。



また、現在の技術を使って妖怪の世界観を楽しめるよう、ホログラム等を活用した展示展開について検討する。

なお、展示の具体的な構成やゾーニングは設計段階で検討するものとする。

3-3. 原画展示・企画展示・屋外展示

(1) 原画展示

外光からの確実な遮光措置を講じた原画資料専用の展示スペースの確保と、繊細な照度設定が可能な照明設備を整備する。光による退色から守るために、定期的な展示替えを行う。資料の安全性や取り換えの容易さに配慮し、展示手法やケース仕様の検討を行う。



(2) 企画展示

保管資料及び借用資料を活用して、水木しげる先生や妖怪文化に関する多彩なテーマの企画展を年2回程度の頻度で開催する。さまざまなテーマに対応できるフレキシブル性のある展示室とする。

企画展示テーマ例：

- 「水木しげるのおばけ学校」：夏休みに子どもたちを対象として、妖怪やおばけについて楽しみながら学べる企画展示
- 「水木しげるが描いた戦争」：自信が経験した戦争を描いた作品を通して、戦争体験を伝える企画展示

(3) 屋外展示

水木作品の人気キャラクター等による写真を撮りたくなるフォトスポットとして整備し、来館者の口コミやSNSによる情報拡散をねらう。なお、現在夜間に行われている動く妖怪影絵は継続して行うものとする。

3-4. イベント計画

(1) イベント計画の考え方

1. 地域と連携し、既にある魅力を活かすイベント計画

市内や水木しげるロードで定期的に行われるイベントや行事、そしてそれらを支える地域の各主体と連携し、水木しげる記念館の特色を活かせるイベント計画を立案する。

2. ターゲットに合わせた幅広い体験プログラム・講座展開

親子向け、学校団体向け、外国人向け、オンライン講座など、多様なニーズに応えるプログラムを企画する。質の高い作品作り、専門性の高い講座など、有料プログラムも企画し、収益拡大につなげる。

3. 夕方以降の楽しさを強化し、滞在延長・宿泊者増につなげる

特に観光客の滞在時間延長をねらい、ナイトタイムならではの取り組みを強化する。

4. 記念館との新しい関わり方・活動を支えるサポーターづくり

講座・ワークショップやガイドツアーなどの担い手となる市民の募集・育成を行う。今まで以上に地域の方々が記念館に愛着を持ち、ふるさと・境港に誇りを持てるような活動展開を行う。

(2) 活動案

以下のようなイベントが例として考えられる。多彩なイベントを様々な主体と連携することにより、持続的な集客や賑わいづくりへつなげる。

イベント例

- AR 技術を活用した、妖怪たちが姿を現す夜間限定イベント
- 妖怪がロードを練り歩き出題するクイズラリー
- 紙芝居、読み聞かせ
- のんのんばあ（語り部）養成講座（シニア向け）
- こども妖怪博士プログラム
- マイ妖怪ブロンズ像制作
- もののけ3館（小泉八雲記念館、三次もののけミュージアム）を遠隔でつなぐオンライン講座等 など

4 その他の事項

4－1．感染症対策

(1) 感染症対策を徹底した施設計画

以下の内容に留意し、感染症対策を行い来館者が安心して利用できる施設を目指す。

- ・ビル管理法における空気環境の基準に基づき、必要換気量（一人あたり毎時 30m³ 以上）が確保できる空気調和設備を設けて、十分な換気量を確保する。
- ・空気浄化導入空調・換気システムを検討し、感染症対策を行う。加湿装置付き空調や、ウイルス対策フィルターを採用し、花粉やアレルギー物質を制御する。
- ・換気システムは、熱交換式の機器を採用するなど、安全で適切な室内環境を確保する。
- ・抗菌・制菌・抗ウイルス表示のある器具や部材、仕上げ材の積極的な活用を検討する。

(2) 来館者の安全を確保し、施設を体験できる運営

感染症等への対策にあたり、出入り口での自動検温システムや手指の消毒、来館者同士の適正な距離の確保など、基本的な安全対策を徹底し、安心して施設を利用できる運営を目指す。妖怪を用いた注意喚起などを工夫しながら、子どもたちが積極的に感染症対策を行えるようなしかけも検討するなど、この施設らしい体験性をもった安全対策を検討し、施設や活動づくりを計画する。

4－2．景観

(1) 水木しげるロードの景観と調和し、ふるさと境港を感じる施設

現在の水木しげる記念館は、北に島根半島の山々を望み、半島に沿って流れる境水道と並行する場所に立地しており、その前面を通る水木しげるロードが東西各所を結んでいる。

水木しげるロード街なみ環境整備の趣旨に従い、周辺環境との調和を図りながら検討を進めるとともに、境港の自然や風景も水木しげる先生の生涯を紹介する重要な資源ととらえ、ふるさと境港の空気や光、季節や時の移ろいを感じることが出来る建物を目指す。

(2) 屋外交流スペースによる新たな施設の景観づくり

建物の前面（水木しげるロード側）に開かれた「屋外交流スペース」を設置し、多彩な交流活動を行う。活動によるにぎわいが水木しげるロードまでにじみ出すことで、来訪者の興味を刺激し、自然に敷地内へと誘導することで施設への誘客を図ることをねらいとする。人々が集いにぎわう光景そのものが新たな施設の景観をつくりだす。

また、新たな施設の象徴としてシンボルツリーの配置を検討し、木陰を兼ねた一時的な休憩場所や団体客の集合場所等として活用する。なお、現在中庭にある松の木は既存施設の象徴として来訪者を迎え入れる前庭への移植を検討し、配置を検討する。

4－3．防災

(1) 防災を意識した施設づくり

近年、各地で想定を超える気象災害が頻発している。今後様々な災害が発生する可能性を踏まえ、下記の視点で防災を意識した施設づくりを行う。

1．耐震計画

- ・耐震設計重要度係数 1.25 以上を確保し、大地震後も大きな補修をすることなく使用できることを目標に、人命の安全確保、機能確保が可能な計画とする。

2．構造計画

- ・基礎構造、上部構造とも、基本設計段階において、地盤調査・施工性・コスト・工期等の詳細な検討の上で総合的な判断を行う。

3．浸水対策

- ・「境港市津波・洪水ハザードマップ」では想定区域外の地域であるが、豪雨や津波による想定以上の浸水深になる場合に備える。

4．避難計画

- ・各所において、見通しの良い 2 方向避難を確保し、確認しやすい避難誘導灯を設置し、避難誘導する。
- ・避難通路幅を十分確保し、最短で外部に避難できる計画とする。避難通路に面する壁面は強度を確保し、強化ガラス等の採用で安全に配慮する。
- ・緊急車両の寄付きを確保し、緊急時の迅速な対応ができる計画とする。

5．防犯対策

- ・前庭に常夜灯を設置し、暗闇の死角を減らすことで夜間の防犯対策をする。
- ・高性能監視カメラを各所に設置し、映像をモニター監視とともに記録することで、不審者の侵入などに対応する。

5 管理運営計画

5－1．管理運営方法

(1) 現況と課題

現況施設では境港市の直営で運営を行っており、黒字経営が続いていることが強みである。課題としては、専門知識を有する学芸員等の人材が在籍していないことから、資料の管理や展示替え等が館単独では難しいことが挙げられる。

(2) 事業発展のための充実した運営体制の検討

再整備にあたっては、多様化するニーズに柔軟に対応しながら、地域とともに持続的な事業発展を目指していくことが求められる。そのため、民間事業者等の柔軟な発想やノウハウを活用することも視野に検討する。特に資料保管事業や展示・公開事業に対応するためには、学芸員や学芸員に準ずる職員を配置する必要がある。

(3) 持続的で発展的な利用者サービス

現状の開館時間と入館料は以下の通り。現在は年中無休で運営を行っている。新たな施設についても現在の利用者サービスの質は維持しつつ、ニーズを取り込み事業活動に反映することで、さらに発展的な運営ができるよう検討を進める。

■現在の運営状況

開館時間	午前9時30分～午後5時 ※開館時間延長日あり
休館日	年中無休
入館料	一般 700円(600円) 中高生 500円(400円) 小学生 300円(200円) 障がいのある方、その介護者一名 300円(200円) ※()内は団体20名以上の料金

5－2．組織体制・人員配置計画

(1) 現状の組織体制

現在の運営における組織体制は以下の通り。原画等の資料や活動を担当する専門スタッフは有していない状況にある。

■現在の組織体制

担当	人数	主な業務内容
館長	1名	・施設の代表者
職員	1名	・全体の統括マネジメント
事務員	3名	・総務・サービス管理に係る業務 ・経理・会計管理に係る業務 等
案内員	10名	・入館受付、団体対応 ・フロアでの接客対応 ・ショップでの接客・販売 等
着ぐるみ隊	5名	・来館者おもてなし、集客 等

(2) 人員配置計画の考え方

前頁までに掲げた事業活動の実現が可能な人員配置を目指す。経営的視点を有し、全体の統括マネジメントを行う責任者、水木しげる先生やその作品への理解、妖怪文化に関する専門性を有し、資料保管や展示に係る業務を行う学芸員やそれに準ずるスタッフ、多様な主体と連携・協働しながら活動のコーディネートを行うスタッフ、集客や観光振興に関する活動を推進する広報集客を担当するスタッフなどの配置を検討する。

5－3．什器・備品整備

(1) 什器・備品整備

事業計画に応じて、円滑に活動を推進するために必要な什器・備品を整備する。

特に求められる什器・備品としては、展示替えのしやすい展示ケースや、原画等の資料を保管するためのドライキャビネット等が考えられる。適切な数量・総額は設計段階で具体的に検討する。

5－4．維持管理

(1) 施設の維持管理

1．屋内の維持管理

来館者が安全で快適に過ごせる環境を維持するために、日々の清掃と、定期的な点検・補修を行う。

2．屋外の維持管理

四季の魅力を伝えるために、屋外の植栽等の管理を適切に行う。また、冬季の積雪時の対策等について検討する。

3．展示の維持管理

特に来館者が触れる機会の多い体験型の展示や、デジタル機器を用いた展示設備等について定期的に点検・補修を行う。

4．感染症対策

感染症対策のための日々の取り組みとして、入口での検温、共用部や手に触れる展示物などに対してアルコール消毒による清掃や換気等を行う。なお、開館時の社会情勢に合わせて行うものとする。

5－5．広報計画

(1) 広報計画の考え方

1. オンラインを通じた広報の充実

記念館のウェブサイト充実させ、全国のファンや来訪を検討している方々へ、来館したいと思っていただけるような情報発信を行う。展示やイベント等の最新情報の他、SNS を活用して記念館の日常の様子を発信し、記念館をより身近に感じてもらう工夫を取り入れる。さらに、館内の展示や活動が見られるバーチャルミュージアムや資料アーカイブの公開等を検討する。

2. 観光客に向けた地域の魅力発信

館内に、水木しげるロードや市内の見どころやイベント等に関する情報発信を行い、周遊観光やまち歩きのかきかけにつなげる。さらに、フォトスポットの設置や SNS 投稿を促すキャンペーンなど、来館者自身による情報発信や口コミを促進させるしくみづくりを行う。

3. 子どもたちの学習の場としての活用促進

来館のかきかけづくりとして、市内小学校や近隣他施設での出張展示・出張ワークショップなどを実施。子どもたちに水木しげる先生や地域への興味関心を促し、学びの場として活用いただけることを目指す。

4. 水木しげるロード関係者や旅行会社等に向けた情報共有

現況施設では、展示やイベントに関する情報が水木しげるロード周辺の施設や団体に共有されていない課題がある。水木しげるロードを訪れる来訪者の回遊性を高めるために、水木しげるロード関係者や旅行会社等に向けて、記念館の最新情報を共有するしくみづくりを行う。

6 収支計画

6－1．建設費・施設運営経費等

（1）施設整備費

水木しげる記念館整備費用のうち、建築工事費については、一般的な公共工事で近年整備された類似施設の整備例から試算すると単位当たりの面積は、鉄骨造は412千円／㎡、鉄筋コンクリート造は524千円／㎡。これに想定面積約1,600㎡を乗じると鉄骨造は約6.6億円、鉄筋コンクリート造は約8.4億円となる。

また解体撤去費の約0.4億と展示製作費・収蔵庫什器製作費の約4.4億、設計費等の約1.6億を加えると一般的な公共工事で整備した場合、概算の整備費は鉄骨造で約13億円、鉄筋コンクリート造では約14.8億円が見込まれる。

今後、具体的な整備方法等について検討する。

項目	鉄骨造	鉄筋コンクリート造
工事費（建築・展示・収蔵庫什器製作費含む）	11.0 億	12.8 億
解体撤去費	0.4 億	
設計費等	1.6 億	
合計（税込）	約 13 億円	約 14.8 億円

（2）施設運営費

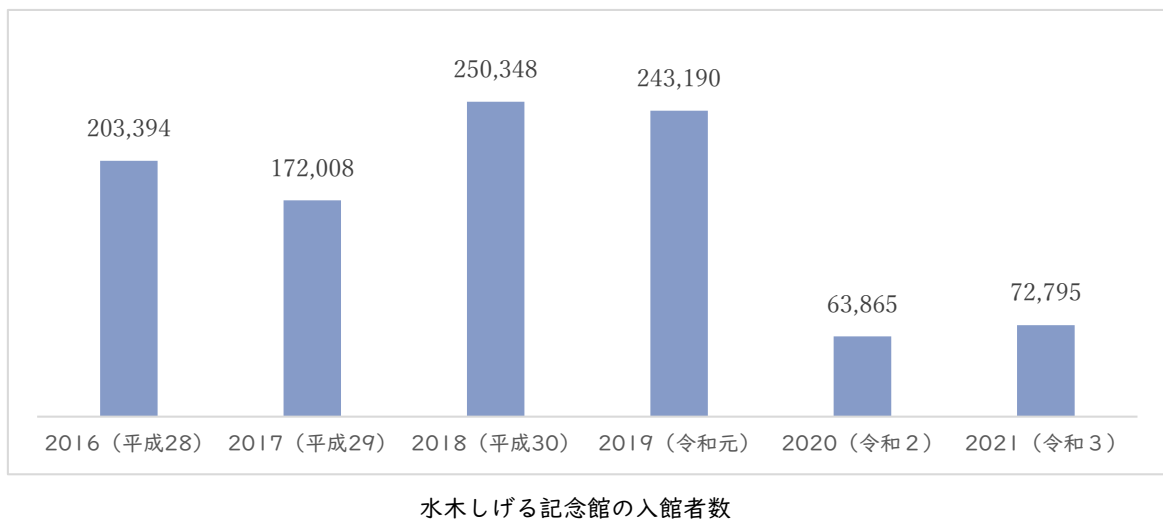
現在の組織体制に学芸員を加えた人件費、光熱水費等の施設管理費、企画展やイベントなどの事業費の合計として、年間1億円（税込）程度の施設運営費を想定します。運営については引き続き、施設全体での収支バランスを鑑みながら、水木しげる記念館にとって最適な運営方式や運営計画等の詳細検討を踏まえて、最終の施設運営費を確定します。

6-2. 入館者数見込み、入館料物販販売収入等

(1) 現況と課題

水木しげる記念館の入館者数は、水木しげるロードリニューアルが行われた2018（平成30）年には25万人を記録したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、2021（令和3）年には7万人にまで激減した。

また、水木しげるロードから記念館への取り込みが限定的であり、2回目以降の来館につながる取り組みに課題がある。観光利用だけではなく地域利用も視野に入れ、日常的なリピーターを増やしていくことが求められる。



(2) 入館者数見込み

2022（令和4）年春現在、新型コロナウイルス感染症の拡大によって観光等の国内での移動や国外からの渡航に大きな影響が残る中で、どの程度の入館者数を見込むか判断することは困難ではあるが、段階的に、感染拡大前の入館者数水準に取り戻していくことを目指す。

入館者数の確保にあたっては、水木しげる先生の生誕祭等の記念イベントを実施するほか、水木しげるロードの繁忙期（ゴールデンウィークや夏休み）や社会情勢等を考慮した集客計画を検討する。

また、快適性の向上や感染症対策として繁忙期の混雑を緩和するために、時間制予約システムの導入を検討する。

(3) 入館料物販販売収入

1. 入館料の設定

有料エリア・無料エリアの区分について、常設展示・企画展示・原画展示等の展示に関わるエリアを有料とし、それ以外のエリアは無料とする。入館料の設定は現況の料金設定を基本とするが、想定される入館者数と運営経費等から施設を安定的に運営していくための適切な料金を検討する。

2. 物販販売等

ミュージアムショップでの物販での収入、ワークショップや講座等の活動に伴う参加料等の収入を見込む。

(4) 収支想定

現在は入館料が主な収入源となっている。年間の施設運営費を、現在と同様、入館料を中心に賄えるだけの収入を確保するためには、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準である年間17.5万人程度の集客が必要となる見込みである。ただし、今後の情勢により来館者数の急激な回復が見込むことができるかどうかは不透明であることから、関係機関や関係団体等と連携し、各種収益事業等についても検討・計画しながら安定的、持続的な活動を目指す。なお、事業活動における収入の扱いについては、運営方式と併せて今後も継続的に検討するものとする。

7 工程計画

7-1. 整備工程（案）

一般的な公共工事による建築及び展示における整備工程は以下の通り。2022（令和4）年度から2023（令和5）年度にかけて、建築および展示の設計期間（基本設計と実施設計を合わせて約12か月間）、2023（令和5）後半から2024（令和6）年度にかけて建築工事、展示製作（約12か月）を見込む。施設運営についても建設工事と並行して万全な開館準備を行うことを想定する。

